

令和2年度
茨城県青少年赤十字活動事例集



日本赤十字社茨城県支部
茨城県青少年赤十字指導者協議会

青少年赤十字（Junior Red Cross）の役割は、誰の心の中にも本来ある「やさしさ」や「思いやり」を引き出し、育てることです

青少年赤十字は、Junior Red Cross の頭文字をとり、JRC と呼ぶことがあります

目 的

「困った人、苦しむ人を見たら何とかしたい」という誰の心の中にもある気持ち（人道）。青少年赤十字は、活動を通して、この人道の気持ちを引き出し、育てます。そして、自分や人のいのちと健康を大切にする心、人間として、社会のため人のために尽くす責任を自覚し実行できる奉仕の心、広く世界を知り助け合う心を養うことを目的としています。

目 標

上記の目的を具体的な活動に結びつけるために、青少年赤十字では「健康・安全」、「奉仕」、「国際理解・親善」という三つの実践目標を掲げています。また、児童・生徒の主体的で自立した態度を養うために、「気づき」、「考え」、「実行する」という態度目標も掲げています。

実践目標

健康・安全

- ・自身や身近な人の健康・安全に関する知識や技術を学びます。
（例：毎日の手洗い推進、災害に対する備えなど）

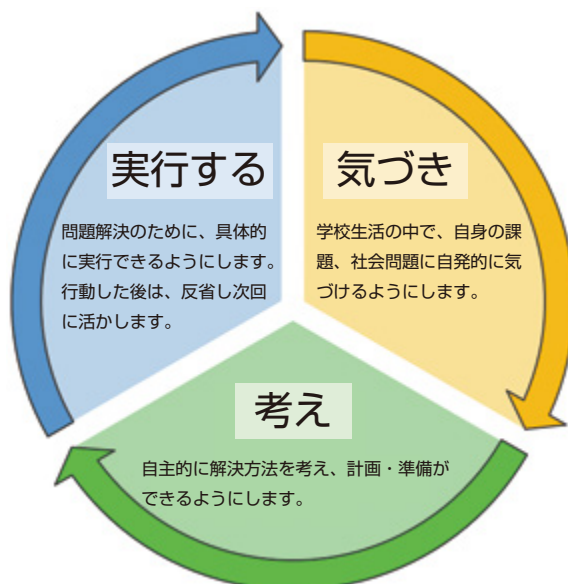
奉 仕

- ・自発的な奉仕活動から、社会の一員として互いに助け合い、協力しあう心を養います。（例：募金活動、校内清掃活動など）

国際理解・親善

- ・赤十字のネットワークを通じて世界の仲間たちと交流することで、世界の問題を学び、相手を正しく理解して交流を深めます。
（例：国際交流イベントなど）

態度目標



目 次

目的、目標	1
目次	2

小学校の部

北茨城市立中郷第一小学校	福祉体験活動	4～5
大子町立だいご小学校	青少年赤十字大子地区大会	6～7
大子町立依上小学校	保小小連携 生活科「秋遊び」交流会	8～9
日立市立大沼小学校	日立地区リーダーシップ・トレーニング・センター	10～11
鹿嶋市立大同東小学校	登校班で仲良く安全に登下校しよう	12～13
潮来市立大生原小学校	「よりよい人間関係」を築くための活動、「奉仕の精神」を育てる活動	14～15
土浦市立下高津小学校	たかつ集会 JRC 委員会	16～17
土浦市立東小学校	国際理解教室	18～19
境町立境小学校	コロナに負けるな！境小	20～21
青少年赤十字提供プログラム		22

中学校の部

北茨城市立関本小中学校	関本かほちゃプロジェクト	24～25
北茨城市立磯原中学校	性教育講演会	26～27
大子町立大子中学校	老人ホーム訪問を通じた交流活動（1学年）	28～29
日立市立駒王中学校	宮田川清掃を中心とした校外ボランティア活動	30～31
日立市立助川中学校	新型コロナウイルスについて知ろう	32～33
潮来市立潮来第一中学校	親子奉仕作業	34～35
土浦市立土浦第四中学校	難民支援プロジェクト 全校道徳「届けよう服のチカラ」	36～37
坂東市立岩井中学校	道徳科における新聞記事から考える新型コロナウイルスについて考える	38～39
坂東市立東中学校	県西地区青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター	40～41
青少年赤十字と学校教育の関わり		42

高等学校の部

茨城県立水戸桜ノ牧高等学校	青少年赤十字中国メンバーとの交流事業「一日高校体験」「博愛会主催交流集会」	44～45
茨城県立勝田工業高等学校	被災地へ送る土のう袋に応援メッセージを書こう！	46～47
茨城県立水戸第三高等学校	手話講座	48

防災教育の部

青少年赤十字の防災教育		50～52
大子町立大子幼稚園	防災教育（年長児）地震から身を守る（教材 きけんはっけんの活用）	53～55
北茨城市立中郷第二小学校	自分の命を守るために災害について学ぼう	56～57
那珂市立第一中学校	自然災害への正しい知識を身につけよう	58～59
茨城県立石岡第一高等学校	令和2年度青少年赤十字防災教育プログラムをいかした防災避難訓練	60～61
青少年赤十字に登録するには		62
青少年赤十字登録申込票		63

小 学 校 の 部

福祉体験活動

北茨城市立中郷第一小学校

実践目標	活動場所	活動期間
健康・安全	北茨城市立中郷第一小学校 体育館・教室・西棟	令和2年2月8日

活動のねらい

○高齢者疑似体験、車椅子体験、点字体験の活動を通して、高齢者や障害のある方への理解を深める。

準備等

1 事前準備

- (1) 社会福祉協議会との連絡調整
- (2) 体験活動のグルーピングや振り返り用紙等の用意、歩行ルートの設定
- (3) 司会や進行などの児童への事前指導

2 当日に使用するもの

- (1) 車イス・・・8台
 - (2) 点字セット・・・40 セット
 - (3) 高齢者体験セット・・・8セット
 - (4) 振り返り用紙・・・人数分
- ※ (1) ～ (3) は社会福祉協議会から借用。

内容

1 車イス体験

車イスに乗ったり、後ろで押す方法を学んだりする。

車イスが必要な人の気持ちを経験することで、どのように支援されると安心できるか、どんな風に支援すると乗っている人に安心感を与えられるかを学ぶ。

実際に車イスを操作し、発進や停止、段差がある道の移動方法などを学ぶ。



〈車イス体験の様子〉

2 点字体験

点字を読んだり、点字を打ったりする体験を通して、目が不自由な人の気持ちを理解したり、生活の中にあるボランティア活動について理解したりする。

点筆や専用の紙に、点字表を見ながら自分の名前を打ったり、友達の名前や好きなものを読んだりする。



〈点字体験の様子〉

3 高齢者疑似体験

アイマスクとベストや重りなどを装着し、高齢者の視界の狭さや体の不自由さ等を体験する。階段を昇降する中の変さを実感し、支援の方法を学ぶ。



〈高齢者疑似体験〉

4 振り返りを書く

福祉体験活動を通して、感じたことや学んだことを振り返り、ボランティア活動についての理解を深め、自分にできるボランティア活動について考える。

成果・今後の展望

【成果】

高齢者や目の不自由な人の気持ちを考えることができた。

支援を要する人への理解が高まった。

支援する側、される側両方を体験することで、支援が必要な人に寄りそう気持ちや支援してくれる人への感謝の気持ちをもつことができた。

【今後の展望】

さらに多様な体験をできるようにして、より多くの支援の方法を学べるようにしたい。

自分にできるボランティア活動について考えを深め、身近な人への支援をできるように意識を高められるようにしたい。

青少年赤十字太子地区大会

太子町立だいで小学校

実践目標	活動場所	活動期間
奉仕	太子町立中央公民館 講堂	平成 30 年 2 月 14 日

活動のねらい

○本会では、国際赤十字の基本理念である「人道」を基盤に、3つの実践目標をかけた、豊かな人間性や生きる力の育成に努めている。そして、「気づき・考え・実行する」という態度目標のもとに、幼児・児童・生徒が、自ら学び、自ら考え、自律した生活が送れるよう、活発に活動している。

国際紛争などにより不自由な生活を強いられている方が世界中にいる中、私たちはこうした災害や国際紛争から、かけがえのない命や人と人との絆の大切さ、平和の尊さについて気づき、考え、実行することが求められている。

本会で得た実践の成果をメンバー全員が共有し、幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校の各成長段階で青少年赤十字の精神を学んでいけるようにする。

準備等

1 事前の準備（大会のための事前打合せ）

- (1) 各学校からの義援金を募る
- (2) 青少年赤十字活動発表の担当校の確認
- (3) 青少年赤十字指導者の当日の役割分担確認
- (4) 会場準備

2 事前の指導

- (1) 義援金贈呈の練習
- (2) 青少年赤十字の旗入場練習
- (3) 大会での各学校の担当児童生徒の役割確認
(開閉会のことば、青少年赤十字の誓いの言葉、「空は世界へ」指揮者、義援金贈呈など)
- (4) 青少年赤十字の歌「空は世界へ」の練習
- (5) 赤十字活動発表校の発表練習

内容

1 事前活動

- (1) 各校での青少年赤十字の活動
(ゴミ収集活動、募金活動、姉妹校との交流、地域の文化を調べ紹介するなど)

2 当日の活動

「第 38 回 青少年赤十字太子地区大会プログラム」

第 1 部 13:40～14:20

1. 青少年赤十字の旗入場（各校 1 名）
2. 開会のことば

義援金は、各校で募金活動を行って集めたものである。

- ## 6. 主催者あいさつ

青少年赤十字大子地区指導者協議会会長

- ## 7. 来賓紹介並びに来賓祝辞

第2部 14:30～15:00

事例発表（2校）

- ## 8. 閉会のことば



成果・今後の展望

本大会を通して、児童は次のような感想を述べている。

「太子地区大会に参加して、他の学校がどんなことに取り組んでいるのか、発表を聞いてよく分かりました。」

「いろいろな取り組みがあることを知って勉強になりました。」

以上のようなことから、児童が青少年赤十字の活動により関心をもつことができたと感じた。

青少年赤十字の旗入場や義援金の贈呈は、開会前に練習を行ったため、スムーズに進めることができた。児童・生徒による運営を行い、大子幼稚園による開会のことは、園児らしい元気の良さで、大会を盛り上げた。

以前は事例発表を３校で実施してきたが、各校の負担軽減や、発表内容の精選のために２校ずつによる実施とした。その結果、発表時間の確保や、発表内容の充実につながった。

青少年赤十字大子地区大会において、園児・児童・生徒が学んだことを、各学校で生かせるよう、指導をしていきたい。

保小小連携 生活科「秋遊び」交流会

大子町立依上小学校

実践目標	活動場所	活動期間
国際・親善（地域）	大子西保育所	令和元年 12 月 12 日 9 時 40 分～ 11 時 20 分

活動のねらい

- 生活科で学習したことをもとに、保育所の子供たちと交流しながら秋遊びを楽しむことができる。
- 来年度入学する保育所の子供たちと交流することで、新入学児の不安を解消できるように努める。
- 学習の成果を西保育所の先生方に見ていただく。
- 保育所の子供たちと交流し、「自分が楽しむ」から「保育所の子供たちに楽しんでもらう」など相手のことを考えた活動をする。
- あいさつをしっかりと行いバスの中でのマナーを守る。

準備等

- 1 依上小・さはら小（4月4日）依上小
(1) 小小連絡会にて、年間を通した交流活動の検討、校外学習等の確認・日程調整を行った。
- 2 西保育所への依頼
- 3 依上小1・2年生 生活科校外学習（11月5日）大子広域公園
生活科「あきとふれあおう」
秋の公園で秋を感じたり、落ち葉や木の実を集めたりした。
- 4 依上小・さはら小・西保育所合同打ち合わせ（11月6日）西保育所
日程・内容の確認等
- 5 生活科における事前準備 各学校
生活科「つくろうあきのおくりもの」
 - (1) おもちゃ製作
 - (2) 秋の遊びの計画
 - (3) 保育所の子供たちとの交流のしかたや練習
 - (4) 事前準備など



内容

時間	場所	主な活動内容
9:30 9:50	大子西保育所着	(さはら小) (依上小) ・バス到着後 保育所内を見学
9:50～		・保育士さんへのあいさつ
10:00～		・秋遊び
		1 はじめのことば 2 歓迎 3 自己紹介タイム 4 歌「あわてんぼうのサンタクロース」 5 遊び方の説明 けんだま ペットボトルどんぐりマラカス こま はっぱカード ゴーストバスター わなげ 6 おわりのことば
10:45	大子西保育所発	
10:50		
11:10		
		(さはら小) (依上小) バス出発まで 保育所内を見学

成果・今後の展望

〈活動の成果〉

例年、依上小は西保育所との保小接続を兼ねて交流行事を行ってきた。令和元年度は、同じ西中学区のさはら小と年度始めに「小小連絡会」を開催したことをきっかけに、内容と時期を見直し、保育所の子供たちとの交流会を合同で実施することにした。

生活科の授業に合わせ開催時期を12月に設定した。事前準備として、両校において10月に広域公園や茶の里公園に行き、落ち葉や木の実を拾うことができた。また、保育所への招待状の作成など教科（国語科）と関連して実施できた。交流会に向けて両校での事前準備を行い、内容を確認しながら進めることができた。

保育所の子供たちと交流し、相手のことを考えた活動をすることができた。また、来年度入学する保育所生と交流することで、新入学児の不安を解消したり上級生になる気持ちを感じたりすることができた。

〈今後の展望〉

事前準備の段階でも、交流を深められるように内容を充実させたい。事前の公園への校外学習も合同で実施し、交流を深められるとよいと考えている。

日立地区リーダーシップ・トレーニング・センター

日立市立大沼小学校

実践目標	活動場所	活動期間
リーダー養成	日立市立駒王中学校 かみね公園	令和元年8月7日

活動のねらい

○児童・生徒に青少年赤十字の精神を培うと共に、リーダーの養成を目的とする。

準備等

- 事務局（駒王中）
トレセンの企画・運営
（日程調整、参加校への通知、協力団体との連絡調整、会場の利用申請・下見等）
- 参加校
指導者の打ち合わせ会議への参加
（トレセン当日のタイムスケジュール・役割分担・注意事項等の確認）
参加児童生徒への事前指導、タクシーの手配等

内容

日立地区リーダーシップ・トレーニング・センター

【活動内容】

- 対 象 … 日立市内青少年赤十字加盟校全 40 校、高等学校 5 校
- 参 加 … 各校 2 名程度（児童生徒 76 名）
大沼小より 6 年児童 2 名、指導者 1 名が参加
- 指導者 … 加盟校担当者（38 名）、アカシア会（49 名）、
賛助奉仕団（4 名）、茨城県支部（2 名）、
事務局（5 名） 参加者計 174 名
- 日 時 … 令和元年 8 月 7 日（水）9：00～15：00
- 会 場 … 日立市立駒王中学校・かみね公園
- 内 容 … （1）青少年赤十字実践目標・歴史（講義）
（2）青少年赤十字防災教育プログラム（講義・演習）
（3）グループエンカウンター（演習）
（4）非常食づくり（ハイゼックス炊飯）（実践）
（5）フィールド・ワーク（かみね公園）（実践）
※演習についてはアカシア会（高校生）に講師を依頼しました。

【活動の様子】



〈防災教育プログラム〉



〈ハイゼックス炊飯〉

成果・今後の展望

いくつもの体験をする中で、小学生から高校生まで交流を深めることができた。

J R Cの意味や活動の意義、歴史について知ることができ、これから世界に目を向けてJ R C活動へ参加していこうという意欲が高まった。

高校生やアカシア会の生徒の参加が多く、特にグループエンカウンターでは、中心となって小中学生を面倒みてくれ、楽しく活動できた。

トレセンにおける貴重な体験を、参加者が各学校に持ち帰り、他の児童生徒に伝達をし、今後のJ R C活動に生かせるとうい。



まめ知識

《リーダーシップ・トレーニング・センターとは》

リーダーシップ・トレーニング・センター（以下、「トレセン」と言う。）は、青少年赤十字の最も特徴のある教育プログラムの一つで、集団生活を伴う学習活動の場です。

青少年赤十字メンバーはここで、リーダーとして必要な自主・自律の精神を身につけ、赤十字や青少年赤十字に関する知識や技術への理解を深め、生活態度全般にわたっての学びを深めていきます。

《リーダーとは？》

リーダーは、集団の発展を意識し魅力ある集団づくりのために努力できる人物のことです。

望ましいリーダーの要素として、

- みんなの意見をよく聞き、上手にまとめられる人
- 誠実で信頼される人
- みんなを納得させ、率先して行う人
- みんなのために進んで計画し、実行する人
- 自分たちが目指すものが明確である人

が、あげられます。トレセンを通して、メンバーはリーダーの要素を養うことができます。

登校班で仲良く安全に登下校しよう

鹿嶋市立大同東小学校

実践目標	活動場所	活動期間
健康・安全	各通学路・昇降口	7月15日から毎朝 7:40～7:55

活動のねらい

- 自他の生命を尊重し、安全な登下校ができるようにする。
- 登下校の際に、登校班の仲間と協力して歩こうとする心情を育てる。

準備等

- 1 全地区登校班の表
- 2 「天使カード」と「残念カード」 全39班分
- 3 集計表

内容

- 1 自分たちの学校生活で困っていること・解決したいことを全児童にアンケート調査する。
- 2 集計の結果、「登下校の歩き方がよくない」という課題が明らかになる。
- 3 他の委員会の代表者と話し合い、改善策を検討する。
- 4 昇降口に集計表を掲示しておき、毎朝班長が登校の様子を振り返り、自己評価でカードを貼る。
 - (1) 安全に登校できた班は「天使カード」
 - (2) 安全に登校できなかった班は「残念カード」



〈登校時に班長が登校の様子を振り返り、自己評価でカードを貼る様子〉

- 5 毎週金曜日の昼の放送の中で、登校班で安全に登校できたか集計結果を報告する。

登校の登校が上手にできるよう、みなさん協力をお願いします。

地区名	1班	2班	3班	4班	5班	6班
大森町	/2	/2	/2	/2	/2	/2
大森町1	/1	/1	/1	/1	/1	/1
大森町2	/1	/1	/1	/1	/1	/1
大森町3	/2	/2	/2	/2	/2	/2
大森町4	/4	/4	/4	/4	/4	/4
大森町5						
大森町6						
大森町7						
大森町8						
大森町9						
大森町10	/15	/15	/15	/15	/15	/15
大森町11						
大森町12						
大森町13						
大森町14						
大森町15	/3	/3	/3	/3	/3	/3
大森町16	/4	/4	/4	/4	/4	/4
大森町17						
大森町18	/7	/7	/7	/7	/7	/7
大森町19						
大森町20						

〈委員会で使用している集計表〉

- 6 結果を掲示し、全児童に登校の様子について、実態を把握できるようにする。



〈全校児童に登校の様子を知らせる掲示物〉

成果・今後の展望

《活動の成果》

安全な登下校を全学年の児童が意識するようになった。

登校の様子について職員に相談をするきっかけとなっている。

《今後の展望》

改善が見られない班がある。安全に登下校するための話合いの場を設けるなどして、改善を図る取り組みを工夫する必要がある。

安全な登下校に加え、地域の方への自主的な挨拶を推進していく。

「よりよい人間関係」を築くための活動、 「奉仕の精神」を育てる活動

潮来市立大生原小学校

実践目標	活動場所	活動期間
奉仕	大生原小学校、学校周辺	1 大生原小緑の少年団（縦割り活動） 2 毎週水曜日「ボランティアの日」 年に3回「募金活動」募金活動

活動のねらい

○大生原小学校のJRC活動は、3つの柱で活動している。1つ目は、「国際理解・よりよい人間関係」、2つ目は、「奉仕の精神」、3つ目は「自他の命を守る」である。

大生原小学校は学年の人数が10人以下の学年がほとんどである。そこで、より多くの友達と関わる力を育てるために、縦割り班活動を充実させるようにしている。活動を通して、学校に対する所属感や、他者と協力したり折り合いをつけたりする態度を育てている。

原則として、各自の考えでボランティア活動を行っている。例えば、花壇の草むしりや特別教室の清掃など、自分で考え、必要と感じたことに自主的に取り組ませている。

準備等

1 大生原小緑の少年団（縦割り活動）

- (1) 基本的には児童自身が考え、児童中心に行っている。年間の計画をもとに自分たちで準備・進行を行う。
- (2) 自然体験等は、地域の方の協力を得ながら行う。

2 募金活動（1円玉募金）

- (1) 委員会の中で計画して自分で考え、ポスターや放送（お願い・報告）、朝の時間中に各教室を回るようにしている。

内容

1 大生原小緑の少年団（縦割り班活動）

- (1) 4月の結団式では、縦割り班の名前や1年間の目標を決める。
- (2) 4月下旬には「さくらまつり」という、新入生をかんげいする会を行う。

さくらまつりでは、○×ゲームやクイズ、じゃんけんゲームなど、新入生とふれあえるゲームをしたり、みんなに1年生のことを知ってもらうために、インタビューをしたりする。

また、上級生からの手作りのプレゼントや1年生の歌の発表などもある。

- (3) 毎年5月には、「北浦湖岸自然を守る会」の方々のご協力の下、田植え体験を行う。

この行事では実際に田んぼに入り、苗を植える。田植え体験では、苗の植え方を聞いたり、昔の田植えの話を聞いたりしながら一緒に田植えを行う。収穫したお米は、雑煮にして、10月の運動会で地域の方々と一緒にいただく。



(4) ひまわり畑作りや北浦の水質・生物調査、稲刈り体験等の活動を行い「北浦湖岸自然を守る会」の方々との交流を深めている。

(5) 6月には、3世代交流行事として、大生原小伝統の「茶摘み」がある。大生原小学校の校庭の近くに、茶畑がある。

その茶畑で、毎年地域の方々と一緒に茶摘みをする。

この行事は30年以上続いており、児童の両親、祖父母だけでなく、何年も参加してくださっている地域の方々もいる。

摘んだお茶の葉は、製茶工場で加工をしてもらい、できあがったお茶の葉は大生原新茶として、試飲をしたり、お茶摘みに参加してくださった地域の方々にお配りしたりした。



(6) 夏休みには、「ダンボールハウス」という行事を行っている。

ダンボールを使って地域の方々と家を作り、そこでキャンプをする。ダンボールの家で寝泊まりするというだけでなく、災害時の避難所体験にもなる。

(7) 収穫祭は、皆で収穫に感謝する行事である。秋になると、班で協力して育てたサツマイモを収穫し、たき火で焼きいもにして食べる。毎年、高学年の児童が、落ち葉の集め方や木材の組み方、サツマイモを上手に焼く方法などを低学年に教えている。

(8) 「自然に親しむ会」は、水郷県民の森に行き、縦割り班に分かれて自然の中で遊ぶという行事である。

毎年行われるのは、「秋アート」、「宝探し」というゲームで、どちらも縦割り班で得点を競う。

「秋アート」は、木の実や葉っぱ、小枝などを使ってテーマに沿った絵を描く。「宝探し」は森の中にかくされている宝を探す。どちらのゲームも、班の団結力が勝敗の鍵をにぎる。

他にも、縦割り給食や運動会の縦割り種目など、いろいろな場面で縦割り班活動を行い、異学年間の交流を深めている。

2 毎週水曜日を「ボランティアの日」・年3回の募金活動

(1) 学校全体として活動することもあるが、原則として、各自の考えでボランティア活動を行う。例えば、花壇の草むしりや特別教室の清掃など、自分で考え必要と感じたことに取り組む。

(2) 年に2回、クリーン作戦を行い、全児童で北浦周辺のごみ拾いを行う。毎回多くのゴミが落ちていることには驚かされるが、協力してごみ拾いをした後のきれいになった北浦を見ると、清々しい気持ちになる。



(3) 募金活動は年に3回行う。7月に1円玉募金、2学期に緑の羽根募金、赤いはね募金がある。

また、災害が起きたときには災害義援金等も行っている。

どの募金活動も、J R C 委員会の児童が募金の協力を呼びかけたり、各教室を回って募金を預かったりしている。

成果・今後の展望

行事は、縦割り班活動が多く、6年生はリーダーシップが養われ、他の学年もそれを見て成長ができる。また、地域の方との交流や自然体験から感謝の気持ちや社会性・豊かな人間性が培えるようになった。奉仕活動においても、積極的に行う児童が多く、自ら進んで動く児童が多い。

今後もさまざまな体験を通して、何事にも積極的に取り組み、自分で考え実行できる児童の育成ができるように支援していきたい。

たかつ集会 JRC 委員会

テーマ ～一人でも多くの人の命を救うためにできること～

土浦市立下高津小学校

実践目標	活動場所	活動期間
奉仕	体育館	毎年6月初旬

活動のねらい

- 全校児童に青少年赤十字の一員であることを認識させる。
- JRC 委員会の活動を紹介し、自分たちが協力できることについて知り、学校生活の中での様々な活動への啓発を図る。

準備等

発表用パワーポイント・劇の道具・役割分担

内容

1 発表内容の話し合い

- (1) 4・5月の委員会、休み時間

台本作成・発表用パワーポイントの作成・劇の練習・準備物作成

2 たかつ集会

- (1) はじめの言葉

- (2) 青少年赤十字についての説明

ア JRC の名前の意味について説明をする。

イ 青少年赤十字の「ちかい」のことは全校児童で読む。



- (3) 緑の募金についての劇・クイズ

「緑の募金は日本の緑を増やすだけでなく、地球上の森を増やすことで、地球温暖化を防いだり森作りのリーダーを育てたりするのに役立てられます。」

(台詞の一部抜粋)



(4) 書き損じはがきについての劇・クイズ

世界中で貧しいために学校に行けない子供は約5700万人
いるといわれています。
書き損じはがきが何枚あると
カンボジアでは一人がひと月
学校に行けるでしょうか。

(5) プルタブとペットボトルのキャップ集めについての劇・クイズ

「それはじゃな。今、世界で問題となっている地球温暖化を防ぐことになるんじゃ。

CO₂のために地球温暖化で南極や北極の水が溶けて南の島が海のなかに沈んでしまうことになるんじゃ。

キャップを400個集めるとゴミとして燃やさない分CO₂が150gもへらせるんじゃ。」

(台詞から抜粋)

(6) ベルマーク集めについての劇・クイズ

「ベルマークはみんな学校で使うボールなどに交換できるし、地震などの災害や外国で困っている子どもたちのために使われたりもしていて、ボランティア活動にもなっているんだ。」

(台詞から抜粋)

⑦終わりの言葉

成果・今後の展望

「一人でも多くの人の命を救うためにできること」というテーマで、毎年、募金活動が始まる時期に、全校集会を行っている。JRCの意味や募金の意味について、JRC委員会の児童が中心になって台本作りやパワーポイント作りを行った。

自分たちの活動が、人の役に立っているという自覚が育った。

災害が多い近年、自分たちにもできることはと考え、臨時に水害の募金を行い赤十字に寄付した年もあった。

国際理解教室

土浦市立東小学校

実践目標	活動場所	活動期間	
国際理解・親善	土浦市立東小学校教室 体育館	準備期間 国際理解教室	令和元年9月～ 令和元年10月8日

活動のねらい

- 外国人講師の先生方の話を聞き交流を図ることで、異文化への適応力や感受性を高める。
- お互いの文化を学び、理解し、尊敬し合う気持ちを育てる。

準備等

- 1 グループごとに、事前に希望した国について調べる。
- 2 グループごとに、交流内容について決め、準備をする。
- 3 講師の先生との交流で使用するおりがみ、あやとり、けん玉、かるた等を準備する。
- 4 講師の先生が使用するパソコン、モニター、世界地図、地球儀、マグネット、指示棒等の準備をする。
- 5 国際交流協会から国旗を借りる。教室前面に掲示する。全体会に持参する。

内容

1 国際理解教室までの流れ

- (1) 希望した国について調べを進める。2時間程度
 - ア 6カ国の国の方に来ていただくので、そのうちの2カ国を希望して交流する。
- (2) 交流1部と交流2部のグループにわけると。1グループ14～15人程度（各クラス5人程度）
- (3) 交流グループごとに役割分担と交流内容について話し合いをする。2～3時間程度
 - ア 交流1部が終わったら交流2部で話し合いをする。
 - イ 交流内容は講話を聞くだけでなく、自分たちで日本文化も伝える。
 - ウ かるた、けん玉、あやとり等の遊び、日本文化の説明をする。

2 国際理解教室

- (1) 実施日 令和元年10月8日（火）2・3・4校時
- (2) 実施場所 交流1部・2部（教室、特別室）、全体会（体育館）
- (3) 対象学年 6年生（3クラス）
- (4) 講師の先生の国名 中国、ベトナム、台湾、フランス、アメリカ、カナダ の 6カ国
- (5) 活動の内容
 - ア 交流1部（各教室） 9：55～10：35
 - (ア) 開会式
 - (イ) 講師紹介
 - (ウ) 講師の先生の話
 - ・講師の先生の国の概要（位置、人口、国旗等）について
 - ・食べ物や着る物について

- ・建物について
 - ・祭りや行事について
 - ・自分の名前について
 - ・簡単な言葉の紹介
 - ・日本との文化の違いについて
- (エ) 講師の先生との交流
- ・ゲーム、クイズ、ダンス、歌など
- (オ) 質問及び日本文化の交流
- (カ) あいさつ
- ・その国のあいさつを代表児童の発声に続いて大きな声で言う。
- イ 交流2部（別の教室に移動） 10：45～11：25
- ・内容は交流1と同じ
- ウ 全体会（体育館） 11：35～
- (ア) あいさつ
- (イ) 交流内容の発表
- ・交流2部の内容についてグループごとに発表をする。
- エ 閉会行事（体育館） 11：55～
- (ア) お礼・全体合唱「ビリーブ」
- (イ) 講師の先生の話
- (ウ) 校長先生のお話
- オ 全体で写真撮影（国旗を前に）



成果・今後の展望

6年生は、総合的な学習の時間で「世界の人と手をつなごう」というテーマのもと、国際理解について学習をしており、今回の講話で「日本とは違う国があるんだ」という国際理解の第一歩の気づきを生むことができた。

講師の先生方は、子供たちの関心を引くようにとクイズ形式や実物を見せるなど、工夫して話をしてくれた。話を聞いた後の子供たちは、「実際に見てみたい、その国に行ってみたい!」と興味をかき立てられていた。子供たちは、世界にはさまざまな国があり、そこには自分の国を愛するたくさんの人々が、自分たちと同じように暮らしていることを感じる事ができた。これから国際理解を広めていく上で、視野がぐんと広がった。

コロナに負けるな！境小

境町立境小学校

実践目標	活動場所	活動期間
健康・安全	境小学校校内	令和2年6月～

活動のねらい

○新型コロナウイルス感染症予防に徹底して取り組み、自他の健康に留意し、安全安心な学校生活を送ることができる児童を目指して。

準備等

- 1 距離を保つための足跡カード
- 2 給食配膳時（児童：エプロン・バンダナ、
職員：エプロン・バンダナ、ビニル手袋、フェイスシールド）
- 3 非接触型体温計、検温器（サーモカメラ）

内容

緊急事態宣言下で休校の措置を取ってきたが、5月末の分散登校を経て、6月より本校も学校を全面再開することとなった。そこで、本校では「コロナに負けるな！境小」の名の下に新型コロナウイルス感染症予防対策として、様々な策を講じて取り組んできた。

1 手洗いの励行「バイバイ ばい菌」（2年3組）

かねてより「手洗い・うがい」を徹底しようと呼びかけを行ってきた。

本校2年3組において、手洗いを励行した授業「バイバイ ばい菌」を行った。「指1本1本や、爪の中、手首等をしっかり洗う。」を目標に、手洗い・うがいをする目的を明確にするとともに音楽をかけながら30秒以上かけて洗い流す練習を行った。手洗い・うがいをする事が定着してきた。



2 ソーシャルディスタンスを取ろう（水道・トイレ並び）

新生活様式としてソーシャルディスタンスを取ることの必要性について各学級で学級指導を行った。

また、併せて実際に体感することで理解を図ろうと、水道前、トイレ前において、足跡カードを設置した。

並ぶ時には、その足跡の上に立ち距離を取ることを実感できるようにした。



3 給食配膳の工夫

これまでは、給食当番の児童が白衣に着替えて配膳を行っていた。

しかし、当番以外の児童は、マスクのみの着用であったことから、配膳時の児童の服装を全員、エプロン・バンダナ・マスクの3点セットとし、接触感染の回避を図ることにした。

また、配膳は担任及び副担任等、各教室2～3名の職員で配膳することにした。

その際、エプロン・バンダナ・マスクの他に、接触感染と飛沫感染回避の観点から、ビニル手袋やフェイスシールドを着けて配膳している。



4 検温器の設置

毎朝、全児童及び職員共に、健康観察シートに体調（体温・咳の有無・体のだるさ等）をチェックしてから登校することとしている。家庭で検温しているが、検温を忘れてしまった場合は、職員が非接触型の体温計で検温している。

また、境町からの支援のおかげで、学校に検温器（サーモカメラ）を昇降口に2台設置することになり、登校時に使用して、確実に児童の健康状態を把握できるようにしている。



成果・今後の展望

6月の開始以降、手洗い・うがいや朝の検温等については、一定の効果が見られ、児童も積極的に取り組んでいる様子が見られる。日々の欠席数もコロナウイルスの影響の無かった昨年と比べても大きな差は無い。ソーシャルディスタンスは、給食配膳についても、児童の健康を第一として考え、継続して全職員で取り組んでいく。

今後は、①いかに距離を保ちながら授業を行っていくか②休み時間等の接触をいかに減らしていくかの2点について、さらに意識しながら学校全体で新型コロナウイルス感染症予防に取り組んでいきたい。

青少年赤十字提供プログラム

青少年赤十字（以下、「JRC」と言う。）活動は、**学校生活の中からできるもの**を見つけて実行していますので、**新たに学校で準備していただくものはありません。**

また、加盟校には、日本赤十字社から**充実した活動プログラム**を提供します。

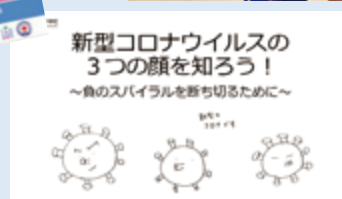
● JRCプログラムに参加できます

- ・ 赤十字ネットワークを活かした事業の参加
 - ①リーダーシップ・トレーニング・センター
 - ②海外派遣（中・高校生対象）
- ・ 学校や指導者、活動、メンバーに対する各種表彰 など



● 教材・資材を提供します

- ・ 救急法講習の無料受講
- ・ 防災に関する教材の無料提供
- ・ 資材・機材の貸し出し（パネル・教材ビデオ等）
- ・ JRC旗、メンバー章（バッジ）等の贈呈
- ・ 定期刊行物の無料送付 など



● 学校の活動をサポートします

- ・ 教職員対象研修会の実施
- ・ 講師の無料派遣（JRC関連授業） など



中学校の部

関本かぼちゃプロジェクト

北茨城市立関本小中学校

実践目標	活動単位	活動期間
奉仕	関本小中学校	4月～8月

活動のねらい

- かぼちゃ販売活動を通して、課題解決能力を養う。
- 各学年での作業を通して、協働する力を高める。
- 周囲の人の役に立つ活動を通して、自己有用感を高める。
- 社会に参画する一員としての自覚をもち、社会参画への意識を高める。
- 奉仕の精神を育む。

準備等

- 1 畑の準備（耕起・施肥）
- 2 マルチ張り
- 3 かぼちゃの苗の定植
- 4 人工授粉
- 5 収穫

プロジェクト総括（児童・生徒会）→購入者用アンケートはがきの作成

商品管理課（小2・小3）→かぼちゃを洗って拭く（小2）、かぼちゃの重さを量る（小3）

メッセージ課（小5・小6）→かぼちゃのレシピを作る（小5）、購入者あてのメッセージを書く（小6）

装飾課（小1・小4）→かぼちゃに貼るシールをデザインする（小1）、かぼちゃに貼るシールを切り貼りする（小4）

広報・宣伝課（中1・中2・中3）→呼び込みの看板を作成する（中1）、ポスター・ちらしを作成する（中2）、かぼちゃの紹介文を書く・ホームページで宣伝する（中3）

【販売当日の準備物】

- ・簡易テント ・段ボール ・値段表示 ・レシピ ・メッセージ ・呼び込み看板
- ・テーブル2脚 ・釣銭 ・ポスター ・関本カボチャ紹介文 ・ビニール袋 ・売上金を入れる箱

内容

1 事前の準備

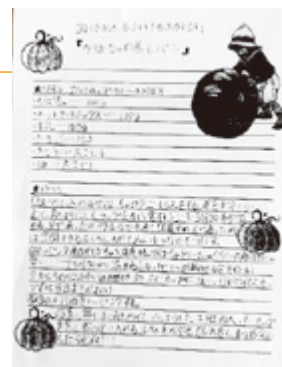
- (1) かぼちゃの育成&収穫
- (2) 販売に向けての準備（上記）
- (3) ポスターの設置、ちらしの配布
- (4) ホームページ、回覧板での宣伝

2 かぼちゃの販売

- (1) 呼び込み



〈かぼちゃの収穫〉



〈かぼちゃのレシピ〉

- (2) 購入個数の管理
- (3) 販売
- (4) レシビ、メッセージ、

3 事後の活動

- (1) かぼちゃプロジェクトの振り返り、反省
- (2) 売上金の使い道の検討

※昨年度はユニセフへの寄付と地域の社会福祉施設へ車いすの寄付等

※今年度は九州豪雨被害の義援金とその他社会貢献等に出資する予定



〈呼び込み〉



〈かぼちゃの販売〉

成果・今後の展望

【生徒の感想から】

- ・このプロジェクトでいろいろなことに挑戦してみて、すごく良かったと思う。販売の方もチラシや回覧板などで広告したことで、多くの方々が来てくれてよかった。
- ・実際に販売に携わって、改めて地域の温かさに触れることができた。学校全体で協力して1つのことを成し遂げられたことに、達成感を感じました。

【寄せられたアンケートはがきから】

- ・寄付や社会貢献のための取組、とてもよいことだと思う。
- ・社会に役立つ行為は非常に立派。



〈昨年度の車いす寄付の様子〉

生徒の感想やアンケートはがきの記述から、この「関本かぼちゃプロジェクト」を通して、児童・生徒の自己有用感や協働する心を育むことに効果があったことがうかがえた。また、社会に役立つ経験をすることで、社会参画への意識の向上と奉仕の精神を育むことに効果があったこともうかがえた。

今後も継続して親善活動を実施し、児童・生徒の心の成長を図っていきたい。



まめ知識

《地域の特性を生かして》

「関本かぼちゃ」は、北茨城市関本地区でとれるブランドかぼちゃです。

関本小中学校では、小中一貫校の特色を生かし、全校生徒で地域の特産品を栽培、収穫、販売を行う活動をしています。

性教育講演会

北茨城市立磯原中学校

実践目標	活動単位	活動期間
健康・安全	北茨城市立磯原中学校 体育館	1年 令和元年10月2日 2年 令和元年6月11日 3年 令和元年6月27日

活動のねらい

- 人間の生を総合的にとらえ、科学的知識を得るとともに、生命の大切さを理解する。
- 人間尊重・男女平等の精神に基づく異性観をもち、望ましい行動をとろうとする態度を養う。

準備等

- 1 講師打合せ
- 2 事前アンケート（実施・集計・送付） 感想記入用紙
- 3 役割分担（委員会：司会、はじめ・終わり・お礼の言葉、講師案内・紹介等）
- 4 放送機器（マイク、パソコン、プロジェクター）
- 5 机椅子演題等 赤ちゃん人形 妊婦体験セット

内容

1 （1年）北茨城市健康づくり課主催 思春期教育「いのちの授業」

- 「生命誕生」
- 「思春期の体と心の変化」
- 「異性とのかわり方」
- 妊婦体験セットの体験

【講話より】腰塚勇人「命の授業」より
「口」は人を励ましたり感謝を伝えるために使おう。
「耳」は人の言葉を最後まで聞くために使おう。
「目」は人の良いところを見るために使おう。
「手足」は人を助けるために使おう。
「心」は人の痛みがわかるために使おう。

《生徒の感想から》

- 赤ちゃんが生まれることは奇跡なんだということが心に残りました。先生のお話の中で、砂漠から朝顔の種を探すようなものだということを聞いて、私はその奇跡の中で生まれたんだと思うと不思議な気持ちになりました。
- 赤ちゃんを産むときのビデオを見て、お母さんはとても苦しい思いをして産んでくれたことが分かりました。また、思春期は自分の体を大人にしてくれることも分かりました。赤ちゃんを抱っこして、親になった気持ちでした。
- 月経や妊娠で不安なことがあったけれど、今日しっかり理解でき、安心することができました。これから月経の時はカレンダーに書いておきたいと思った。



2 (2年) いはらき思春期保健協会

講師 照沼 敏子 様・磯部 佐智恵 様・小沼 純世 様

- 「思春期の体と心の変化」
- 「命の誕生」
- 「男女交際」
- 「ネットトラブル」

【講話より】 思春期を乗り切る4つのポイント

- ①性的欲求には男女差がある
 - ②中学生でも妊娠する・させる可能性がある
 - ③ピアプレッシャーに負けない No と断る勇気をもつ
 - ④ネット・SNS での出会いは絶対にダメ
- ※保健の教科書をしっかり読もう！大事なことが…

《生徒の感想から》

- 今日のお話から、男女交際の注意や正しい知識について、今は無関係でも将来思わぬトラブルを防ぐために気をつけたいと思いました。性に限らずNOという事は大事なのでしっかり言えるようにしようと思います。なぜNOと言う必要があるかも知ったので、トラブルの事例も参考にして相手に伝えられるような関係を作っていきたいです。
- 自分の体だけでなく、心も変化していくのはうれしさの反面、不安や苦しさもありましたが、今回の講演会で少し不安がなくなりました。「自分の行動は自分で決める。」という言葉はとても心に響きました。学校生活やプライベートなどでの行動をよく見直していきたいと思います。

3 (3年) いはらき思春期保健協会 専門家派遣事業

- 交際相手からの暴力予防プログラム
- 人と人とのより良い関係について考える
- クイズをしながら様々なケースを考える

【講話より】

お互いが楽しくて輝いているような、素敵な関係になるには…
「暴力を認めない」「自分のことを大切にすること」「相手のことも大切にすること」自立とは…「本当に困ったときに、自分から助けを求められること」

《生徒の感想から》

- 性教育講演会を終えて、大切なことがわかりました。1つ目は暴力は認めないということ。2つ目は相手を大切にすること。3つ目は自分を大切にすることです。また、暴力は、男の人しかしないと思っていましたが、女の人ケースも多いということがわかりびっくりしました。そして女も男も関係なく、暴力はダメだと改めてわかりました。恥ずかしいと思わず一人で抱え込まずに相談することが大切だと思いました。今多い「自殺」にもつながっていると思うので、悩んでいる人は相談してほしいと思いました。
- 今までの性教育講演会と違って、周りの人と話し合いながら行い、異性とのかかわり方などとても分かりやすかったです。アニメを使って説明していたので内容がとても頭に入ってきました。これからも異性や友だちとの関わり方をよく考えていきたいです。万が一何かがあったら、信頼できる先生や友達に相談して安全に生活できるようにしたいです。



成果・今後の展望

今後も発達段階に合わせて正しい知識を積み重ねていくことにより、生徒一人一人の正しい行動・意識につなげていきたい。

保健委員会の生徒が主体となって運営することで、お互いを高め合い、心身ともに健康な生活を送っていけるようにしたい。

今後は保護者を招いて実施し、家庭との連携を図っていきたい。

老人ホーム訪問を通じた交流活動（1学年）

大子町立大子中学校

実践目標	活動単位	活動期間
奉仕	・温泉リハビリセンター虹の丘（1組） ・養護老人ホーム泉荘（2組）	令和元年6月21日

活動のねらい

- 老人ホームを訪問し、利用者や働く人との関わりを通して、人間の一生や社会の一員としてのあり方について深く考える機会とする。
- 活動を通して、相手に対する思いやりや公共心・奉仕の心を育てる。
- 社会福祉に関心・興味をもち、社会の弱者である高齢者の人権についての認識を高めるとともに、今日の繁栄を気付いてきた高齢者に対して、敬愛と感謝の気持ちを再確認させる機会とする。

準備等

- 1 各クラス5班を編制し、お年寄りとの交流内容について計画を立てる。
- 2 訪問に必要な物の準備・作成（総合的な学習の時間）
- 3 お年寄りとのコミュニケーションの取り方について（ケーススタディ）

内容

1 当日の活動

1組（虹の丘）	2組（泉荘）
(1) 開会行事 ア 生徒代表あいさつ イ 施設担当者のあいさつ及び諸注意 (2) 奉仕活動 ア 手押し車の消毒 イ シーツ・枕カバー交換 ウ 部屋の掃除 (3) 交流 1班 おはじき遊び 2班 かるた大会 3班 折り紙遊び 4班 折り紙遊び 5班 クイズ・ボーリング (4) 閉会行事 ア 歌の披露 イ 生徒代表のあいさつ ウ 施設長さんのあいさつ エ 全員でお礼のあいさつ	(1) 開会行事 ア 生徒代表あいさつ イ 施設担当者のあいさつ及び諸注意 (2) 奉仕活動 ア 車椅子の消毒 イ 室内清掃 ウ 窓ガラス清掃 (3) 交流 1班 クイズ 2班 輪投げ大会 3班 あやとり・こま 4班 トランプ 5班 魚釣り (4) 閉会行事 ア 歌の披露 イ 生徒代表のあいさつ ウ 施設長さんのあいさつ エ 全員でお礼のあいさつ

2 奉仕活動の様子



〈枕カバー交換〉



〈手押し車の消毒〉

3 交流の様子



〈魚釣り〉



〈トランプゲーム〉

4 事後の活動

- (1) 振り返りシートに活動の感想を書く。
- (2) 各施設にお礼の手紙を書く。

成果・今後の展望

奉仕活動を通し、普段から施設の職員がお年寄りの健康面を気遣って細やかな衛生面の配慮を行っていることに多くの生徒たちが実感を伴って気付くことができた。

お年寄りが聞こえづらい場面があった時に、顔を近づけて一生懸命にコミュニケーションを取る姿が見られる等、思いやりの心情を育むことができた。

交流の場面では、はじめは戸惑って自然に話しかけられない生徒もいたが、お年寄りとゲームや折り紙などを楽しんでいる間にすっかりと打ち解け、楽しい時間を過ごすことができた。

輪投げやトランプゲーム等、勝敗のかかる活動の場面では、お互いに立場を忘れて夢中で取り組む場面もあった。お年寄りは「弱者」という視点ではなく、対等に活動できる存在であるという認識をもてたことも意義があった。

コロナ禍にあり、今後は老人ホームなどの高齢者施設を訪問して交流を図っていくのは難しくなるが、何らかの手立てを工夫することで、引き続き福祉への意識を深めていきたい。

宮田川清掃を中心とした校外ボランティア活動

日立市立駒王中学校

実践目標	活動単位	活動期間
奉仕	宮田川ほか	6月上旬と10月上旬（年2回） 8時から10時まで

活動のねらい

○校外ボランティアに主体的に取り組み、目標を達成したり、失敗や成功の体験を積んだり、周りから認められたりすることを通して、自己肯定感を高めていく。

準備等

- 1 ボランティア参加の募集
- 2 ゴミ袋、軍手（1人1組ずつ）

内容

1 駒王中学校のボランティア活動年表

駒王中学校では、1年間に20前後の校外ボランティアなどの活動に参加している。

月	名称	時間	場所	生徒数
5月	なかまるしえ	8:00～16:00	日立駅近辺	33名
	中小路クリーンアップ作戦	8:00～10:00	中小路小近辺	3名
6月	宮田川清掃	8:00～9:00	宮田川	150名
	土曜学校	9:30～12:00	宮田交流センター	6名
7月	土曜学校	9:30～12:00	宮田交流センター	4名
	元気っ子体験村	2日間（1泊2日）	宮田交流センター	8名
	JRC 県トレセン	4日間（3泊4日）	水戸自然の家	2名
8月	JRC 市トレセン		駒王中	3名
9月	土曜学校	9:30～12:00	宮田交流センター	4名
	宮田学区敬老会	9:00～11:30	宮田小	2名
	中小路学区敬老会	8:00～12:00	中小路小	4名
10月	宮田川清掃	8:00～9:00	宮田川	150名
	土曜学校	9:30～12:00	宮田交流センター	4名
11月	土曜学校	9:30～12:00	宮田交流センター	4名
	宮田ふれあい祭り	8:30～15:00	宮田小	12名
	鞍掛山清掃	9:30～12:30	鞍掛山	12名
12月	土曜学校	9:30～12:00	宮田交流センター	4名
1月	土曜学校	9:30～12:00	宮田交流センター	4名
2月	土曜学校	9:30～12:00	宮田交流センター	4名

JRC 委員会の生徒が「1人1回はボランティアに参加しよう」という目標のもと精力的に参加呼びかけを行い、全校生徒の80%以上が毎年1回ボランティアに参加している。今回取り上げる「宮田川清掃」は、本校で参加している活動の中でも、最も多くの生徒が参加しているボランティア活動である。

また、教員や保護者も同じく多数参加しているため、清掃活動を通して、生徒と地域の人々とで密にコミュニケーションをとることが出来るという良さがある。

2 宮田川清掃の主な活動内容

(1) 捨てられているゴミの回収

(2) 草刈り

ア 活動の様子



説明を聞いている様子。



草を刈っている様子。地域の人や保護者の方と、会話をしながら取り組んでいる。



活動に参加している地域の方の様子。
多くの地域の方が参加している。



川の間近で活動する生徒。

成果・今後の展望

長年、数多くの校外ボランティアに参加し、本校生徒と地域の方との関係を積み上げることができている。地域との関係も密接になってきており、年々、より達成感のある役割をボランティアで任せてもらえるようになってきている。ボランティアの後には、掲示物などで参加者の頑張りを全校に伝えるようにしている。

今後もこの活動を通して、地域の方から頼りにされる経験やその頑張りが学校の中で話題になる経験をし、自己肯定感を高められるようにしていきたい。

新型コロナウイルスについて知ろう

日立市立助川中学校

実践目標	活動単位	活動期間
健康・安全	本校各教室	令和2年6月16日

活動のねらい

- 新型コロナウイルスについて知り、自分と他人の命を守る方法について考える。
- 新型コロナウイルス感染による症状だけでなく、不安や差別・偏見について知り、人権意識を育む。

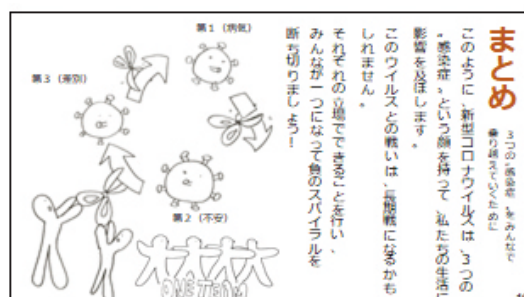
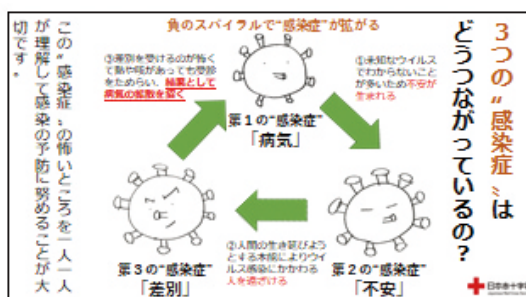
準備等

- 1 「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう」スライド

内容

- 1 外出先でマスクをしていない人を見たらどのような気持ちになるか想像する。
- 2 新型コロナウイルス感染症の3つの顔を知る
 - (1) 第一の感染症「病気」
 - (2) 第二の感染症「不安・恐怖」
 - (3) 第三の感染症「嫌悪・偏見・差別」
- 3 イラストを見ながら、登場人物が自分の命を守れているかどうか考える。

【例】マスクをしているが、気温が高いのに長袖のジャージを着ているため、熱中症になる恐れがある。
- 4 なぜ嫌悪・差別・偏見が生まれるか、また、それらを防ぐには何に気をつけて生活をしていくのが良いか考える。



成果・今後の展望

本授業を受けたことで、生徒たちはコロナウイルスによる病気の予防だけでなく、差別等についても考えることができた。

授業後に生徒たち自らできることをしようと考え、自主的に感染拡大を防止するためのポスターを作成し、廊下に貼る等することで、感染拡大防止への意識付けをすることができた。

授業後に人権についての標語を募集し、学校の様々な場所に掲示をすることで、生徒たちの人権意識を付けることができた。

これからも、道徳や総合的な学習の時間等を軸に人権教育の推進をしていきたい。



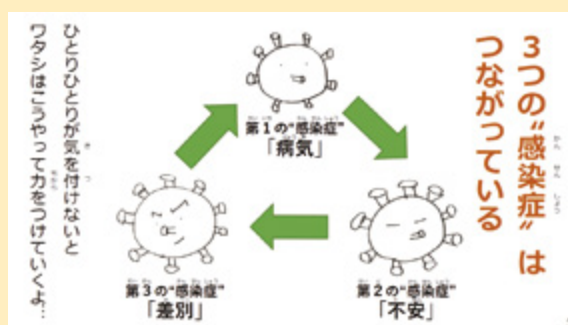
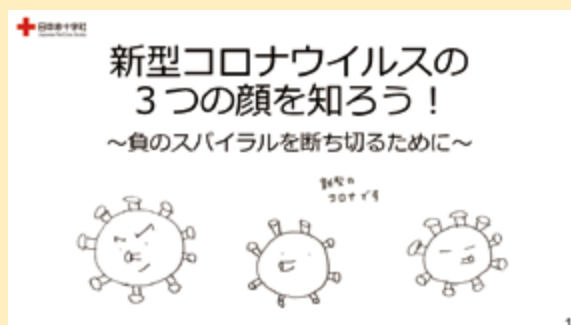
まめ知識

《新型コロナウイルスによる「不安」「差別」について考えよう》

日本赤十字社では、同ウイルスによる「不安」「差別」に焦点をあてた教材「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！」を作成しました。

新型コロナウイルスが引き起こす“負のスパイラル”を断ち切り、さらなる感染拡大を防ぐためのガイドで、学校生活の中で活用いただけます。

教材の詳細については、日本赤十字社茨城県支部組織振興課 奉仕・青少年係までご連絡ください。
TEL：029-241-4516



親子奉仕作業

潮来市立潮来第一中学校

実践目標	活動単位	活動期間
奉仕	潮来市立潮来第一中学校	8月29日 8時～10時

活動のねらい

- ボランティア活動について理解し、実践することで他と共により良く生きる力をつける。
- 自校の清掃活動を通じて環境に対する意識を高める。
- 地域の人たちに支えられていることを知り、感謝の気持ちを持つ。

準備等

- 1 PTA役員と日程調整
- 2 市役所へ軽トラック借用依頼
- 3 全校生徒へお知らせの配付

【準備物】

軍手、鎌、ブルーシート、マイク、スピーカー、ゴミ袋、竹ぼうき、ちりとり、軽トラック、飲み物

内容

- 1 クラスごとに出席確認、集合。
- 2 挨拶



- 3 担当場所を知る。
- 4 各担当場所へ移動し、草刈り。
- 5 溜まった草をブルーシートや回ってくる軽トラックに乗せて裏へ運ぶ。



- 6 終了後は各自鎌を洗い、集合する。挨拶をして解散。

〈活動の成果〉

休日の朝にもかかわらず、ほとんどの家庭が参加している。また在校生だけではなく、卒業生の保護者が前日や奉仕作業開始前から作業を開始していただいている様子を生徒たちは目の当たりにしているので、ボランティア活動の心や感謝の気持ちは自然と感じている。

作業しながらの会話も生徒たちの楽しみのようである。友人同士はもちろんだが、保護者や教員と普段は話さないような内容を話すこともある。学校生活とは違う作業の中で、率先して活動する様子から奉仕の心が育っていることを感じた。また、重い袋を運ぶ友人に手をさしのべるなど相手への思いやりが現れた様子が見受けられる。

〈今後の展望〉

毎年2回行われている奉仕作業だが、この活動を通して、次は学校主催ではないボランティア活動に興味関心を持ち、自ら参加していく生徒の育成に努めたい。



まとめ知識

《身近なボランティア情報》

●書き損じ（未使用）はがきの収集

茨城県社会福祉協議会 水戸市千波町 1918 総合福祉会館 2 階 TEL：029-243-3805

●使用済み（未使用）切手の収集

茨城県社会福祉協議会 水戸市千波町 1918 総合福祉会館 2 階 TEL：029-243-3805

※ お近くの市町村社会福祉協議会でも収集を行っています。

●中古衣料の収集

連合茨城（毎年9月末のみ） 水戸市梅香 2-1-39 TEL：029-231-2020

●楽器（鍵盤ハーモニカ、リコーダーなど）の収集

NGO 茨城の会 那珂市中台 852-9 TEL：029-298-2539

茨城県社会福祉協議会の HP（<https://www.ibaraki-welfare.or.jp/>）から引用。

詳しくは、上記 HP をご確認ください。

難民支援プロジェクト 全校道徳「届けよう服のチカラ」

土浦市立土浦第四中学校

実践目標	活動単位	活動期間
国際理解・親善	土浦市立土浦第四中学校 ユニクロ土浦イオン店	令和元年7月～2月

活動のねらい

- 世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と 人類の発展に寄与する態度を育てる。
- 他の教育活動との関連
 - 1 キャリア教育の視点から（地域や社会とかかわる力：人間関係形成
 - 2 社会形成能力）
 - 3 金融教育の視点から（経済格差・社会への感謝・貢献）
 - 4 小中一貫教育の視点から（子ども服回収協力：小中連携活動）

準備等

- 1 事前活動（全校道徳のための準備）
 - (1) マイク（3）
 - (2) 会場準備（机1 いす1）
 - (3) 機材（プロジェクター PC スクリーン）
- 2 校内、地域活動
 - (1) 子ども服回収用箱
 - (2) 呼びかけ用ポスター作成
 - (3) 搬送用手配
 - (4) ユニクロ土浦イオン店への資材搬入のためのアポイント

内容

1 事前指導

- (1) 全校一斉道徳
ファーストリーディング社よりゲストティーチャー（武下広宣様）をお招きし、『届けよう、服のチカラ』プロジェクトの全校道徳。



2 校内・地域活動

【7月～11月】

- (1) 生徒会による校内、地域への支援活動の呼びかけ
- (2) 子ども服の回収を行う。(全校生徒)
- (3) 難民キャンプへのメッセージを書く。

【11月29日】

- (1) 子ども服の発送
(ユニクロ土浦イオン店に依頼)



【12月】

- (1) ファーストリーディング社が難民キャンプに発送。

【1月】

- (1) ファーストリーディング社から四中に現地レポートが届く。
- (2) 現地レポートを校内に掲示。

事後指導

- (1) 現地レポートをもとに学級活動。
プロジェクトへの取り組みを振り返り、感想を書く。

成果・今後の展望

【成果】

家庭にある着なくなり、捨ててしまう子ども服でボランティアに参加できるならと多くの生徒が参加した。

近隣小学校にも協力を依頼した結果、体育館一面分の衣類を集めることができた。

生徒会を中心に学校全体でボランティアに取り組むことができ、現地レポートを見ることで世界中の難民の人々の生活の手助けをしたことを実感できた。

【今後の展望】

多くの生徒が参加してくれたがまだまだ全校での取り組みとはいかなかったため、今後、同様のプロジェクトに参加する際は、より多くの生徒が参加できるようにしていきたい。

道徳科における新聞記事から考える 新型コロナウイルスについて考える

坂東市立岩井中学校

実践目標	活動単位	活動期間
健康・安全	岩井中学校 校舎内	令和2年9月

活動のねらい

○道徳科の授業において、C－11「正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める。」に該当する内容構成である。

準備等

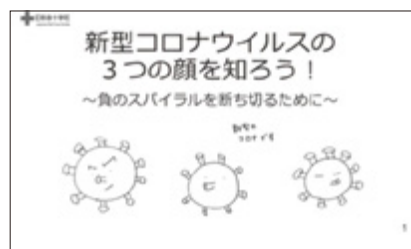
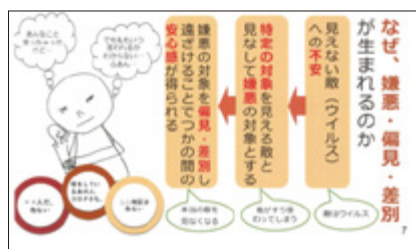
1 資料

内容

学習の流れと活動	予想される生徒の反応	指導と評価の観点
1. 導入（5分） ・新型コロナウイルスについて知っていることを話し合う。 2. 展開（35分） ・新型コロナウイルスに関する新聞記事を読み、意見交流を行う。 ○「なぜ新型コロナウイルスのことで、この人たちは差別をしたのだろうか。」について考える。 ・個人→グループ→全体と意見交流を行う。 ・日本赤十字社から出ている「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！」を読み、コロナ差別が起こるメカニズムについて知る。	・感染力が強い。 ・無症状の患者がいる。 ・発熱と肺炎の症状が出る。 ・世界中で流行している。 ・感染を防ぐためにこまめな消毒やマスク着用在大切。 ・感染のリスクは全員が持っているのに。 ・医療従事者の人たちは最前線で新型コロナウイルスと対峙しているのに感染リスクが高い現場にいることで差別的な扱いを受けるのはおかしい。 ・目に見えないウイルスに関して間違った考えを持っているから。 ・何が正しいのが判断がわかっていないから。 ・新型コロナウイルスの特徴や感染症の中での過ごし方について考える。	・今、もっている自分の考えや、流行初期時の考えなど多くの意見が出るよう、机間指導の時に声かけを行う。 ・新型コロナウイルスに関する差別についての新聞記事を紹介する。 ・ホワイトボードを渡し、グループで出た意見を書き出すよう伝える。 ・グループで意見を絞らずに一人一人の考えを述べるよう伝える。 ・新型コロナウイルスについて、様々な観点から見方が見られるようにしたい。

学習の流れと活動	予想される生徒の反応	指導と評価の観点
○「私たちは差別の輪を広げないために何が必要なのか考えてみよう。」について考える。 ・個人→グループ→全体と意見交流を行う。 3. まとめ ・振り返りを行う。	・相手の気持ちを思いやる。 ・第3者の目線で物事をとらえる必要がある。	・感染症だけでなく、普段の生活でも、正しい判断をもって行動するように伝えたい。

参考資料



成果・今後の展望

新型コロナウイルス感染症についての新聞を読み、感染症の中での差別について、事後の振り返りでは、次のような内容を述べている。

「世界中で感染症の根絶を願うばかりなのに、差別的な言動が起きてしまうのはおかしいと思った」

「何が正しくて、自分たちはどのような行動をとる必要があるのか考える事が大切だと思った」

以上のようなことから、授業を通して、生徒の中に誰に対しても公平・公正であることの大切さや正しい判断で物事をみて行動しようとする気持ちが養われたと感じた。

今後は、新型コロナウイルス感染症と対峙する人たちに対して何か行動に起こせないか（募金活動など）JRC委員会を中心に学校全体で取り組んでいきたい。

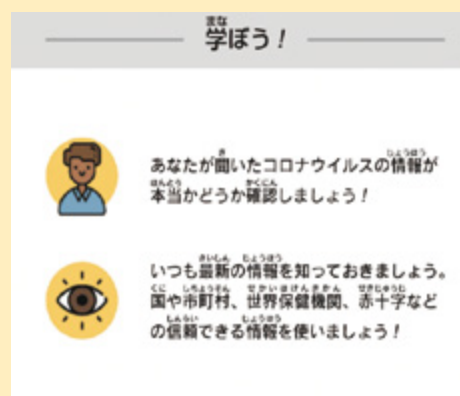
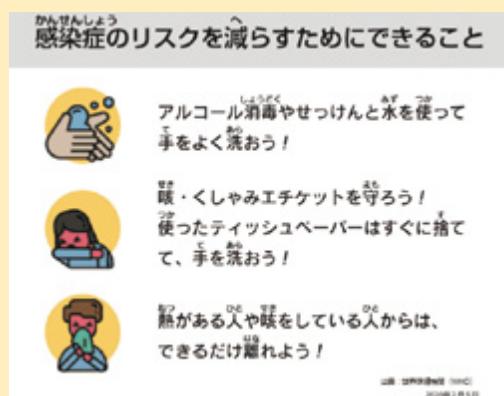


まとめ知識

《新型コロナウイルス感染症から自分や大切な人を守るために》

目に見えない未知のウイルスに対して、不安を感じることがあるでしょう。

必要以上に不安にならないためにも、冷静になり、情報を確認すること、感染のリスクを減らす行動が大切です。



県西地区青少年赤十字 リーダーシップ・トレーニング・センター

坂東市立東中学校

実践目標	活動単位	活動期間
リーダー養成	県立さしま少年自然の家	令和元年8月2日

活動のねらい

○青少年赤十字の組織と活動の中核となる「児童・生徒のリーダー」の養成を目的とする。ただし、ここで言う「リーダー」とは、ある特定のメンバーだけでなく、グループのメンバー全員が進んでグループの中で役割をもち、仕事の内容や時と場所によって、ある時はリーダーになり、またある時は協力者の立場を取ることができるように、メンバー全てが「リーダーシップの取り方を学ぶこと」を目指している。

また、赤十字の基本原則や国際人道法などを学ぶことによって、青少年赤十字の願いである人道的な価値観を自ら身に付け、行動することのできる青少年の育成を目指している。

準備等

- 事前打ち合わせ
 - 日程の確認
 - 指導者の動静と係分担の確認
 - 参加児童生徒の確認
 - 実技研修（ひとりはおみんなのためにみんなはひとりのために、防災グッズ作り）
- 当日の準備物
 - 新聞紙、ごみ袋、キッチンペーパー、輪ゴム、あき缶、スズランテープ
 - お弁当、飲み物、おやつ
 - JRC 旗、デュナン肖像画、CD プレイヤー、CD（空は世界へ）
- 児童生徒の準備物
 - 上履き（学校使用のもの）、筆記用具、体操服、水筒、タオル、歯磨きセット、保険証のコピー、帽子

内容

- 入所式
- 青少年赤十字 県西地区大会
 - JRC 旗入場
 - 青少年赤十字の歌 「空は世界へ」
 - 青少年赤十字ちかいのことば
 - 主催者あいさつ
 - 来賓あいさつ 並びに紹介
 - 事例発表 飯島小学校 岩井中学校
- JRC 講話 「赤十字について」 日本赤十字茨城支部



〈JRC旗〉

- 4 写真撮影
- 5 昼食
- 6 防災教育プログラム
 - (1) アクティビティ
「みんなはひとりのために、ひとりはみんなのために」
 - (2) 防災グッズ作成
「防災の達人になろう」
 - ア ゴミ袋でつくるレインコート
 - イ 新聞紙でつくる帽子
 - ウ 新聞紙つくるスリッパ
 - エ キッチンペーパーマスク
 - (3) ビニル袋包帯法
 - ア ビニル袋で腕骨折時の包帯法を体験する
- 7 防災講話
 - (1) 常総市の水害被害者の方のお話
- 8 お別れ会
 - (1) 班ごとに実施し、心に残る会とする
- 9 退所式



〈アクティビティの様子〉



〈防災グッズ作りの様子〉

成果・今後の展望

《活動の成果》

今回の活動で、グループのメンバーが進んで自分の役割を探し、メンバーと協力しながら行動している様子を様々な場面で見ることができた。メンバーと助け合うことで赤十字の精神を学ぶことができたと思う。また、防災教育プログラムでの防災グッズの作成は、学校に戻ってからの生活に生かすことができた。特に、「キッチンペーパーでつくるマスク」は、新型コロナウイルス感染症の影響でマスクの購入が困難なときに大変役に立った。

《今後の展望》

今後の展望としては、トレーニング・センターに参加した児童生徒が、自分たちの学校でリーダーシップを発揮して、協力することや助け合うことの大切さを伝えることができるようにしたい。また、防災グッズ作りは簡単な準備物で作ることができるので、それらの活動を広めていきたい。

青少年赤十字と学校教育の関わり

学習指導要領の柱の一つである「生きる力」を育成するためには、児童・生徒たちが、**探求心を持って主体的に学ぶ力**を身に着けることが必要です。

青少年赤十字は、態度目標として、「**気づき**」「**考え**」「**実行する**」という3点を掲げており、赤十字活動を通して、「生きる力」の育成に役立てることが出来ます。

また、青少年赤十字は、赤十字が掲げる「**人道（優しさ、思いやりの心）の実現**」を目指し、活動しています。

このことは、学習指導要領で謳われる「**豊かな人間性**」を養うことにも深く関連しています。



高等学校の部

青少年赤十字中国メンバーとの交流事業 「一日高校体験」「博愛会主催交流集会」

茨城県立水戸桜ノ牧高等学校

実践目標	活動単位	活動期間
国際理解・親善	茨城県立水戸桜ノ牧高等学校 および茨城県立水戸第二高等学校	平成 30 年 11 月 18 日～20 日

活動のねらい

○日本赤十字社では、JRC/RCY International Meeting（青少年赤十字国際交流事業）を2年に1回実施している。アジア・大洋州の国々と地域から約40人の青少年赤十字・赤新月メンバーが来日し、日本のメンバーとともにこれらの地域が直面する災害、紛争、貧困、衛生、教育などのさまざまな問題について意見を交換して理解を深める事業である。

この事業に先立ち、来日した各国のメンバーはまず、各都道府県に分かれて日本の高校生メンバー宅にホームステイし、日本の文化に触れ、交流を深めることになっている。

本校は、赤十字の旗のもと同じ志を持つ海外メンバーと“草の根レベル”で交流を深め、お互いの国や文化、青少年赤十字活動について理解し合うことで、世界の人々との友好親善の精神を育成することをねらいとし、平成26年に東ティモール、平成28年にはパキスタン、平成30年には中国からのメンバーを「一日高校体験」として受け入れ、交流活動を行ってきた。

ここでは、平成30年の中国メンバーとの交流事業について、紹介する。

準備等

- 1 県支部からの打診にもとづきホストファミリー決定
- 2 校内の各校務分掌・教科・学年の協力のもと、「一日高校体験」プログラムを作成
- 3 博愛会（水戸地区青少年赤十字高校生連絡協議会）での交流会を企画

内容

【1日目】11月18日（日）「国際交流集会」 於：茨城県立水戸第二高等学校

茨城県青少年赤十字高校生連絡協議会（以下、県連）が中心となって、2名の中国メンバーを迎え、国際交流集会を開催した。本校メンバー13名を含む県内のJRCメンバー61名が参加した。

日本と中国の青少年赤十字活動や文化などについて紹介し合ったり、茶道やカンフー、折り紙などの体験で交流したりした（県連・県支部で企画）。

集会終了後は、ホームステイを受け入れる本校の生徒とともに途中水戸駅周辺を散策しながら公共交通機関で各家庭に移動。受け入れ家庭の協力を得て、それぞれ楽しいひとときを送ることができたようである。翌日、ともに登校した際には、すっかり打ち解けた様子であった。



【2日目】11月19日（月）「一日高校体験」 於：茨城県立水戸桜ノ牧高等学校

バディの生徒とともに中国メンバーも登校し、1年8組で1日高校体験を行った。

以下は「一日高校体験」のプログラムである。

1時間目	学校長あいさつ、国際教育部長からの学校概要についての説明
2時間目	生徒の案内による校内施設の見学
3時間目	茶道体験（茶道部の協力）
4時間目	（前半）国語の授業に参加 （後半）音楽の授業に参加
5・6時間目	家庭科の調理実習に参加

4時間目の国語の授業は漢文であった。中国メンバーに杜甫の漢詩を中国語で音読してもらう。生徒達は、はじめて中国語で聞く漢詩の美しい響きに、改めて韻を踏むことの意味を理解したようであった。

昼休みは購買部でパンを購入したり、バディの生徒のクラスでたくさんの生徒たちと英語を用いておしゃべりしたりと、交流を深めた。

そして5・6時間目は家庭科の授業。中国メンバーもバディの生徒の班に入って、調理実習に参加し、一緒に豚丼を作った。具材を切ったり洗い物をしたり、多くの生徒たちと言葉を交わしながら協力して取り組んでいた。



【3日目】11月20日（火）「博愛会主催交流会」 於：茨城県立水戸第二高等学校

中国メンバーは他校（茨城キリスト教学園高校）での学校体験であったが、終了後、水戸第二高等学校に移動し、博愛会（水戸地区青少年赤十字高校生連絡協議会）主催交流会に参加した。

博愛会役員が企画した様々なゲーム等（「だるまさんの一日」など）を通して親睦を深めた。



成果・今後の展望

わずか3日間ではあったが、バディの生徒のみならず、本校JRC部員や1学年の多くの生徒、そして水戸地区や県内のJRCメンバーが中国メンバーと交流する機会を得た。青少年赤十字の国際交流は、学校や部活動の枠を越えて幅広く交流できるところが魅力である。このような“顔”の見える“草の根レベル”の交流が広がることで、国際理解・親善が深まっていくものと考えている。実際、この機会を通して異文化交流に興味を持ち、半年後に募集のあった北関東3県JRCマレーシア派遣事業に応募した本校JRC部員は4名に上った（1名派遣）。

現在のコロナ禍において、これまで通りの国際交流が実現できるかは不透明であるが、世界とつながる赤十字の強みを生かして、何らかのかたちで交流を持つことができればと考える。内向きな考え方が蔓延る現代だからこそ、互いに顔の見える国際交流を続けることは、次代を担う若者にとってこれからますます大切であると考えている。

被災地へ送る土のう袋に 応援メッセージを書こう！

茨城県立勝田工業高等学校

実践目標	活動単位	活動期間
奉仕	勝田工業高等学校 多目的室等	令和2年6月

活動のねらい

- 校内活動を充実させる。
- 自然災害が多く発生している中で、自分たちにできる支援を考える。
- 被災地に行けなくても、被災者や災害ボランティアの方たちを応援できることを知る。
- 災害に襲われた町に積んである土のう袋に絵やメッセージを書くことで、殺風景な町に色を届ける。
- 相手が喜ぶ絵やメッセージを想像しながら描くことで思いやりの心を育む。
- 外部のプロジェクト団体と連携することで、地域のボランティア活動に貢献する。

準備等

- 1 油性マジック（できるだけたくさんの方があったほうがよい。）
- 2 新聞紙
※なるべく大きな机がある活動場所のほうがよい。

内容

- 1 最初に、『被災地へ土のう袋を送るプロジェクト』代表の佐々木典明さんより、プロジェクトの趣旨、送られた土のう袋がどんなふうに使われるのか、具体的な作成方法について説明を受ける。
- 2 各自が絵やメッセージの内容を考える。
(学校名の入れ方も)
- 3 メッセージ性が強いもの、絵が細かく綺麗なものの等、生徒一人一人の個性を生かしながら作成した。
- 4 生徒同士で話し合う姿や、スマートフォンやタブレットで調べながら作成する様子が見られた。



5 九州での水害直後だったので、被災地を思い浮かべながら、各生徒が真剣に取り組んでいた。



成果・今後の展望

コロナウイルス感染拡大を受けて、校外活動が非常に難しいため、部の活動として、校内でできることを充実させたいと考えていた。その趣旨に合った活動である。有志やその日初めて参加する生徒がいても、問題なく一緒に活動できることは良かった。

今後はクラス単位、学年単位、各クラブ単位等でもこの活動に参加できるように校内で周知を進めたいと考えている。



まめ知識

《被災地へ土のうを送るプロジェクト》

寄付で集めた土のう袋に絵やメッセージを書き、災害発生時に土のうを送る活動をしている民間団体があります。

【事務局】

〒311-0111 那珂市後台 1250-8

代表：佐々木 典明

TEL：029-298-6618

手話講座

茨城県立水戸第三高等学校

実践目標	活動単位	活動期間
奉仕	茨城県立水戸第三高等学校 保育室	令和元年6月～2月（不定期7回）

活動のねらい

- 聴覚障害について理解を深め、交流を深めるきっかけ作りをする。
- ボランティアに参加する者の資質を高め、生涯にわたり活用できる技術を身につける。

準備等

- 1 手話テキスト「奉仕員養成講座入門編」

内容

1 テキストを使った手話練習

講師の後についての一斉練習、ペアワーク、一人ずつの発表など様々な形式で練習し、その日のポイントとなる表現を覚えられるようにする。特に自分の名前や日常生活で必要となる表現については繰り返し練習し、簡単な手話でのやりとりができるようにする。



成果・今後の展望

《活動の成果》

今年は聴覚障害者の方が実際に講座に来て下さったこともあり、聴覚障害者と講師の方の生のやりとりを目にすることができた。そこでは、普段健常者の私たちがテキストを基に練習するのとは違った、息づかいや視線など本物に触れることができた。この経験は生徒たちにとって新鮮でありまた自分たちの手話が実際に使える技術であることを再確認し自信となった。

《今後の展望》

障害のある方との交流する機会を設け、手話ができる技術になるようにしていきたい。

ボランティアに興味があり、積極的に参加する生徒が多いので、校内だけでなく、校外へ出での活動を増やしていきたい。

防 災 教 育 の 部

青少年赤十字の防災教育

未来を担う子どもたちは、将来起こりうる自然災害に対しての正しい知識を持ち、自ら考えて判断し、危険から身を守る行動をとる必要があります。

青少年赤十字の特徴的な手法である「気づき」、「考え」、「実行する」という態度目標を用いた日本赤十字社（以下、日赤）の防災教育は、「人道」の取り組みです。

日赤の防災教育は、子どもたちが主体的に取り組み、知識と行動力を身につけることができるだけでなく、他者への思いやりや優しさ、いのちの大切さを学び取る力を育むことができます。

日赤は、青少年赤十字の防災教育を通じて、青少年の健康と安全を守り、学校や地域、家族での防災意識の向上を目指します。



これまで、青少年赤十字が取り組んできた防災は、自分が助かったことを前提とした救急法や炊き出しなどが中心であり、“人を助けるためには、まずは自分が生きなければならないこと”を学ぶ必要がありました。

将来起こる自然災害に対して、未来を担う子どもたちは、自然災害の正しい知識をもち、自ら考え判断し、危険から身を守る行動をとらなければなりません。

長年にわたって培った青少年赤十字の特徴的な手法である「気づき、考え、実行する」という、態度目標を用いた防災教育は、児童・生徒が主体的に取り組み、知識と行動力を身につけることができること、そして、他者への思いやり、優しさやいのちの大切さを学び取る力を育むことができるプログラムとなっています。

この「防災教育」は、青少年赤十字の活動の根底にある「人道」の取り組みであるとも言えます。青少年赤十字防災教育プログラムが学校教育において活用され、“未来の被災者”を救い、自然災害によって悲しい思いをする人が一人でも少なくなることを望みます。

青少年赤十字防災教育プログラム検討委員会

「まもるいのち ひろめるぼうさい」はじめにより抜粋



青少年赤十字防災教育教材の紹介

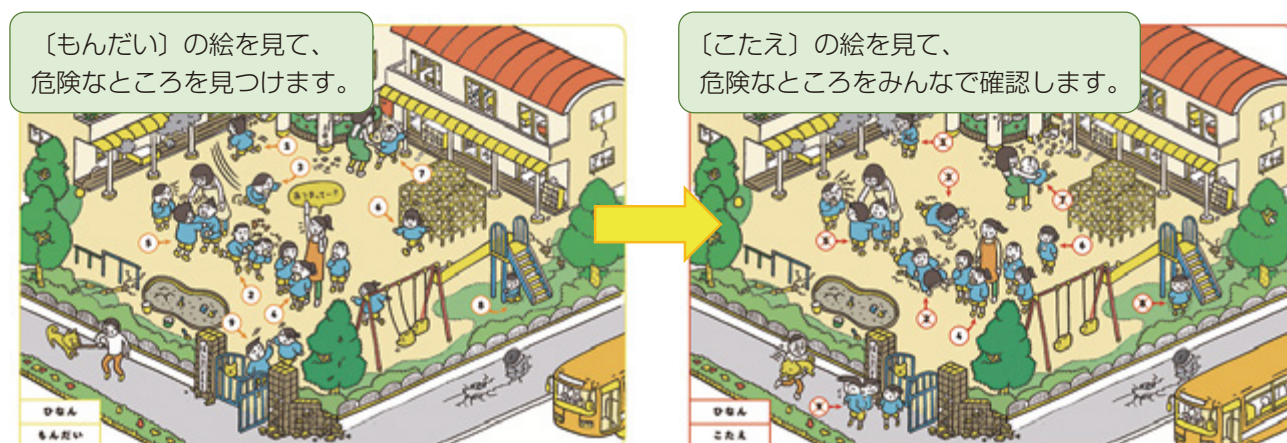
「ぼうさいまちがえし きけんはっけん！」 (幼稚園・保育所向け)

幼稚園・保育所の子どもたちに、災害時の危険（場所・行動）について伝え、自分の身を守るための基礎的な知識や判断力を身につけてもらうことを目指した教材です。

間違い探しを楽しみながら、以下のような学習指導要領・幼稚園教育要領に定められた防災分野での高い学習効果を実現することを目的としています。

- ①危険な場所、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動すること。
- ②遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになること。

《使い方》



《「ぼうさいまちがえし きけんはっけん！」の特徴》

(1) 気づき 考え 実行する 園児とともに話し合いながら、自ら「きけん」について「はっけん」し、どのような行動をとるべきか考えることができます。	(2) 災害時にとる行動の結果がわかる 間違った行動をするとどうなるか、「なぜ」その行動をとるのかまで学ぶことができます。	(3) 危険の察知ができる 普段の生活の中に潜む危険なモノや人の行動を学び、災害時にとるべき行動を学ぶことができます。
(4) 解説書付きで簡単 簡潔に書かれた解説書を一度読めば、簡単に誰でも教材を使うことができます。	(5) 園で行う防災教育に取込みやすい 園で行っている防災訓練等の内容に、簡単に付け加えることができます。	(6) 園児にも親しみやすい絵 かわいく親しみやすい絵が描かれており、興味を引きつけながら楽しみながら防災を学ぶことができます。
(7) 様々なシーン別 教室の中、園庭や、様々な災害など、地域の環境に応じて学びたい部分を6テーマから選ぶことができます。	(8) 繰り返し学べる 一枚の絵の中に色々な子どもたちが描かれ、それぞれのストーリーがあります。色々な発見ができ、繰り返し学ぶことができます。	(9) 大人も学ぶことができる 大人も、様々な災害や、災害時の危険な行動や有効な行動を、学び、発見することができます。

青少年赤十字に加盟することで、このような教材を無償でご提供いたします。

『まもるいのち ひろめるぼうさい』（小・中・高校向け）

まもるいのち

自分のいのちを守る力を身につけること。

ひろめるぼうさい

学校、地域、家庭に防災を広めることで、防災意識を高め、周りの命を救うこと。いのちの大切さ、思いやる心を育てること。

自然災害に向き合ってきた日赤と現場の教員が提案する「授業ですぐ使える防災教材」を一冊にまとめました。

児童・生徒が主体的に防災に取り組めるよう、「気づき、考え、実行する」力を重視。

「自然災害の正しい知識」「自ら考え、判断し、危険から身を守る行動」を災害ごとに選択できる映像教材や「思いやり、優しさ、いのちの大切さ」「想像力」などを育むテキスト教材・資料を収録しています。



（主な内容）

【学ぶことができる自然災害】

- ・地震災害・津波災害
- ・風水害（台風、豪雨、雷、竜巻）
- ・雪害
- ・火山災害

【グループワーク向け教材（CD-Rに収録）】

- ・コミュニケーション力などを養う
「防災コミュニケーションワークショップ（BCW）」
- ・災害事例に基づいて、考える力や想像力を養う
「自分だったらどうする」

【特典・資料映像】

- ・教員のための「エキスパートエラー」を解説
- ・これから防災を学ぶあなたへのメッセージ
- ・津波災害の映像（提供：岩手県宮古市）
- ・津波のシミュレーションCG映像（提供：三重県）
- ・土石流の映像（提供：長野県木曽郡南木曽町 国土交通省）
- ・火山噴火の映像（御嶽山）



『まもるいのち ひろめるぼうさい』を活用した授業の様子を
YouTube日本赤十字社公式チャンネルで公開しています。

日赤 まもるいのち

検索



映像には日本語字幕、副音声付！
チャプター選択で、災害別に学ぶことができます。
ジャーナリスト・池上彰さんの解説と女優・伊藤歩さんのナビゲーションも収録しているよ！

青少年赤十字に加盟することで、このような教材を無償でご提供いたします。

防災教育（年長児）地震から身を守る

（教材 きけんはっけんの活用）

大子町立大子幼稚園

実践目標	活動単位	活動期間
防災	大子幼稚園	年間

活動のねらい

- 危険な場所、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気をつけて行動すること
- 遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき、判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになること
（学習指導要領・幼稚園教育要領より）

準備等

教材 きけんはっけんシート

内容

1 災害について知る（知識）（30分）

解説書（P 4）シートA表「ふだんのまち」・

B表「さいがいのおきたまち」

活動形態 一斉（指導者1人）

災害の種類、災害が起こるとどうなるか。

（1）災害の種類

シート「ふだんのまち」を提示し、大子町との違いや、自然の中で自然と共に生活をしていることを確認し、自然災害について、知っていることを自由に発表する。

台風 地震 津波 火事 雷

大雨（洪水）土砂崩れ 火山の噴火



（2）災害が起こると・・・

シート「さいがいのおきたまち」を提示し、自然災害の怖さを確認した。一人ひとりがしっかりと自分の考えや気付いたことを発表する。知識の豊富さ、感情の豊かさに驚かされた。

怖い 家が壊れる 死んでしまう みんなで楽しく暮らせない

災害の種類、災害が起きた時の子供たちの気持ちを確認し、次の活動（地震が起きた時の対応）へとつなげる。

2 自分の身を守る①（場所）（30分）

解説書（P 5）シートC表「じしん①もんだい」・D表「じしん①こたえ」

活動形態 一斉→グループ→一斉（指導者3人）

教室で危険な場所を知る。（倒れてくるもの、動いてくるもの、落ちてくるもの）

（1）導入 一斉（5分）

様々な災害があったことを思いだし、その中でも地震はとても怖い、いつ起こるか分からないことを一斉で確認する。

（2）展開 一斉→グループ→一斉（20分）

①「シートじしん①もんだい」を提示し、自分たちの部屋と同じところがたくさんあることを確認し、この部屋にいて大きな地震が起きたらどうしたらいいかを全体で確認する。

机の下に隠れる 危ない場所から離れる 先生の言うことを聞く

②3グループに分かれ「じしん①もんだい」を提示し危険な場所やその理由を自由に発表する。

倒れてくるもの 棚、本棚（下敷きになる）

落ちてくるもの 花瓶、額縁、時計、本など（当たってけがをする）

動いてくるもの ピアノ、可動式の棚など（当たってけがをする）

③一斉に戻り、それぞれのグループで出た意見を発表する。

④シート「じしん①こたえ」を見て確認する。

（3）まとめ 一斉（5分）

- ・教室には気をつけないといけないところやものがたくさんある。
- ・自分の家についても、家族で話し合う。

3 自分の身を守る②（行動）（30分）

解説書（P 6） シートC裏「じしん②もんだい」・D裏「じしん②こたえ」

活動形態 一斉→グループ→一斉（指導者3人）

倒れてくるもの、動いてくるもの、落ちてくるものから身を守る

（1）導入 一斉（5分）

①前時の振り返り

大きな地震の時には倒れてくるもの、落ちてくるもの、動いてくるものがあることを確認。

（2）展開 一斉→グループ→一斉（20分）

①一斉で「じしん②もんだい」見て、どの子が安全で、どの子が危ないのか、その理由も合わせて発表する。

安全 机の下に潜っている

棚から離れようとしている 等

危険 棚が倒れないように支えている

泣いて先生にしがみついている 等

②「①」の活動をもとに、3グループに分かれ、どの行動がなぜ危ないか自由に意見を出し合う。なぜ危ないのか、安全なのかその理由も子ども自身の言葉で発表することにより、深く考えるようにする。

③一斉に戻り、グループで出た意見を発表したあと、「じしん②こたえ」を見て、いい行動、だめ



な行動の確認をする。

(3) まとめ 一斉 (10 分)

- ・危険なものから離れる。頭や体を守る。
- ・「地震が起きた時、もし、先生や家の人が近くにいなくても、勇気を出して行動できるようになろう」

4 ルールに従い避難する (行動のまとめ) (30 分)

解説書 (P 7) シート E 「ひなん もんだい」 シート F 「ひなん こたえ」

活動形態 一斉 (指導者 1 人)

地震後の火災から安全に避難する。

(1) シート「ひなん もんだい」を見て、間違っただ行動をしている子供を見つけ、なぜ間違っているのか考える。

(2) 答えが一通り出たら、シート「ひなん こたえ」を提示し、絵を見比べながら確認する。

逃げる時は、ハンカチで口をおさえる。勝手に行動しない。逃げる時の約束「おはしも」(おさない、はしらない、しゃべらない、もどらない)を守る。

もし先生がいなくても、勇気を出して行動する。

避難する時の心構えは、毎月の避難訓練で、確認しているため、子供たちの行動様式としてしっかり定着している。

成果・今後の展望

教材「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん」を活用したことにより、子供たちは、楽しみながら身に付けている知識の再確認、さらに、必要な知識をしっかりと身に付けることができた。

同じシートが複数枚あるので、3グループに分けて活動したため、自由に意見を発表し合うことができ、主体的な活動ができた。

今回の指導で感じたことは、教材を活用して培われる知識の蓄積はとても重要であり、この教材は、1回だけでなく、何回か繰り返して活用することによって、より知識の蓄積を図ることができるということ。

さらに、毎月行っている避難訓練、消防署の指導の下で行う地震体験など、活動を通して培われる行動の蓄積もとても重要であるということである。

昨年 (令和元年) 10 月、台風 19 号で甚大な被害を受けた大子町。今後地震だけでなく風水害についても、シートを活用し指導し、一人一人の子供に、災害に対する知識ととるべき行動をしっかりと身に付けさせていきたい。



自分の命を守るために災害について学ぼう

北茨城市立中郷第二小学校

実践目標	活動単位	活動期間
防災	北茨城市立中郷第二小学校	平成 29 年度

活動のねらい

- 災害に備えて、自分がどのような能力を身につけておけばよいかを理解させる。
- 「自分の命は自分で守らなければならない」という意識を持たせる。

準備等

- 青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」から、映像「命を守る防災」
ワークシート 作文教材 グループワーク

内容

- 1 「防災」の意味を知る（映像「命を守る防災」）
- 2 災害の恐ろしさに気づく（津波の映像）
- 3 ワークシートで考える
 - （1）学校で地震がおきたとき、あぶないものは？
 - （2）災害に備えて、どんな準備をしていますか？
- 4 資料集を使って考える
 - （1）写真データで考える



「避難所でのストレスを考えてみよう」

- （2）作文資料で考える
 - ・小学2年生の作文「ありがとう」
 - 作文を通して・・・
 - 命の大切さ ○家族や友達の大切さ ○前向きに生きていくことの大切さ
 - 協力することの大切さ を考える

5 グループワークで考える（「みんなで分けよう」・一部手直しして使用）



- (1) 避難所に集まった家族構成と現在ある食料の条件を確認する。
- (2) どのように分けるかグループで話し合う。
 - ・熱のあるおばあさんに、水は必要だね。
 - ・おなかに赤ちゃんがいる人に栄養をあげないと。
 - ・ケガをした人に体力をつけさせないと。
 - ・小さい子に食べ物をあげないとダメじゃない。

6 防災コミュニケーションワークショップを活用する（ドローイング・チャレンジ）

- ペットボトルと水性マーカーで作った大きなペンをチーム全体の人差し指だけで支え、協力して模造紙に絵や図形を描く。
- みんなで協力して課題をやり遂げる気持ちを育てることができ、「自己有用感」「自己存在感」を感じることができる。



- アンケート結果から、児童の防災への意識が高まってきたと考えられる。
 - ・防災の意味を知っている 100%
 - ・災害時にどのような行動をとればよいかわかる 86%
 - ・災害が起こったときのために事前に準備している 23% → 41%
- 災害に向けた準備については不十分である。「災害時に必要なものをバッグにまとめる」など、児童自身ができる備えをしっかりと行わせることが大切である。

自然災害への正しい知識を身につけよう

那珂市立第一中学校

実践目標	活動単位	活動期間
防災	那珂市立第一中学校	平成 29 年度

活動のねらい

- 「人を助けるためには、まず自分が生きなければならないこと」を学ぶ。
- 自然災害の正しい知識を持ち、自ら考え、判断し、危険から身を守る行動をとることができるようにする。

準備等

- 日本赤十字社青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」から、グループワーク教材「1 あなたの大切なもの」「2 みんなでわけよう」「3 自分だったらどうする」

内容

1 あなたの大切なもの

(1) 活動の流れ

- ア 「二者択一」について話し合う（グループ）
- イ 「あなたの大切なもの」について考える（個人）
- ウ 意見交換し、考えを整理する（グループ→個人）
- エ 避難所という想定で考えを深める（個人→グループ）
- オ 振り返り（個人）



(2) 生徒の振り返り

- ア 地震は、本当にいつどこで起こるかわからなくて、何があってもおかしくないから、日頃から備えておきたい。
- イ 家族とはぐれず、避難所で安全に過ごせるようにしたい。
- ウ テレビで、避難所の様子を見た。私だったらこんな時、何を持って行くかと考えた。この授業を通して、自分の「大切なもの」をよくわかった。
- エ 大切なものをよく考えると、やはり命が一番だと考えた。命は家族や友人にも存在するので、命を守るということには自分以外の命も含まれるんだなと感じた。

2 みんなでわけよう

(1) 活動の流れ

- ア 情報カードをもとに何をしたらよいか話し合う。（グループ）
 - ・「条件」「食料」「家族構成」のカード
- イ 振り返り。（個人 → 全体）

(2) 生徒の振り返り

- ・すばらしかった友達の発言
 - ア 妊婦さんの栄養バランスを考えてあげていた。

イ 自分は賞味期限切れのパンでも大丈夫とってくれた。

ウ おばあさんを心配する発言。

エ みんなが大きな声を出さなくても会話できるよう、「静かにして」と言ってくれた。

・意見をまとめるにはどんなことが大切か

ア いろいろな人に、「どんなこと書いてあるの?」と聞く。

イ みんなの持っている情報をまとめる。

・避難所で食料を分けるときに気を配ることは

ア 家族の人数やその状況。

イ 他の人がほしいと思っているものをあげる

・話し合いをするときの注意点は

ア 反対意見も最後まで聞く。

イ よいと思ったことは提案する。

ウ みんなで一斉に話すのではなく、順番に話す。



3 自分だったらどうする

(1) 活動の流れ

ア 配られた問題について考える。(個人)

イ 意見を述べ合う。(グループ)

ウ 振り返り(個人)

(2) 生徒の振り返り

ア 自分の意見をきちんと言えるようになりたい。

イ 自分と違う考えでも、「確かに」と思うことがあった。

ウ 自分の考えが正しいのかわからなかったが、友達の意見を聞くことができてよかった。

エ 立場や見方によって意見が異なり、難しかった。

オ 自分のこともまわりのことも考えて、その時最もよいと思う判断をしなければならないところが難しかった。

カ 自分と他人との考えや見方は違うから、被災地では言動に気をつけることが大切だと思った。

成果・今後の展望

1 成果

(1) 活動を通して、生徒たちの中で防災への意識が高まり、自分や他人の「いのち」の大切さに気づくことにつながった。

(2) どの教材も取り組みやすく、一人ひとりが課題意識を持ち、友達と協力して活動することができた。

(3) 活動を振り返ることで、自分の考えを深めたり、友達の良さを認めたりすることができた。

2 課題

(1) 学年、学級単位だけでなく、学校全体の防災教育としての位置づけ。

(2) 生徒の実態に合った教材の選択、指導の工夫改善。

(3) 映像資料の活用。

令和2年度青少年赤十字防災教育プログラムを いかした防災避難訓練

茨城県立石岡第一高等学校

実践目標	活動単位	活動期間
防災	茨城県立石岡第一高等学校	令和2年度

活動のねらい

本校は全校生徒936名の総合高校である。例年10月に石岡市消防署のご協力のもと、PTA役員と地域住民代表の方に参加頂き、全校生徒一斉避難と、消火器による消火訓練やレスキュー車による救助実演体験を防災避難訓練として実施している。

本年度は10月14日に計画してあったが、新型コロナウイルス感染症が流行し、石岡市消防署の協力が得られなかったため、学年別避難後、全校生徒に各教室で青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」のDVDを用いて防災教育を行った。

実際に避難訓練した後で、いのちを守る行動がとれたか振り返ることと、自然災害に対し、正しい知識を持ち、自ら考え、判断し避難できるようになることを目的とした。

準備等

人数確認、避難経路・避難方法の説明

内容

	内 容	時間(分)
1	事前指導 人数確認、避難経路・避難方法の説明	5
2	避難訓練 (地震発生)机の下に身を隠す 頭部の保護、出口の確認 *まだ避難しない (火災発生) 一斉放送『給食室で出火、先生の指示に従って避難してください』 「押さない、駆けない、しゃべらない、戻らない」 特に感染症予防のためしゃべらないことを指示 *学年別避難場所へ避難	30
3	防災教育 DVD視聴後、ワークシート記入・話し合い 青少年赤十字防災教育プログラム授業（展開はテキストP46参照） 「まもるいのち ひろめるぼうさい」中学生用・高校生用 地震災害 A-0～A-4視聴 ワークシート記入 話し合い	30 10 10
4	学校長講評（校内放送による）	10

(1) 避難訓練について

本年度は避難経路の見直しを図り、時間短縮につながった。「押さない 駆けない しゃべらない 戻らない」の指示事項どおり速やかに避難できた

(2) 青少年赤十字防災教育プログラムDVD視聴「まもるいのちひろめるぼうさい」について

本年度の新しい試みとして導入した防災教育は、青少年赤十字防災教育プログラムの地震災害を選んで視聴した。ワークシートをまとめ、今回の学びを発表した。



[生徒のワークシート・意見発表より]

- ・地震が起こるメカニズムを知り、自然災害はいつでも起こりうるので、常に備えておこうと思った。
- ・自分の部屋の本棚の固定が必要だと思った。スマートフォンのライトを使うことが多いがバッテリーがなくなるといけないので、部屋に懐中電灯を置いておこうと思った。
- ・ラジオは常に携帯したい。
- ・学校の防災避難経路は絶対覚えていた方がいい。さっきは人の後について避難しただけだった。
- ・昼間、家族がバラバラの場所で被災した際に集まる場所を決めておく必要がある。
- ・自分の住んでいる地域のハザードマップは調べておいた方がいいと感じた。
- ・見る前は絶対にスマホと充電器があれば大丈夫と思っていたが、非常持ち出し用の食料を準備しておく必要がある。
- ・ペットは避難の際どうしたらよいのか、教えてほしかった。
- ・電車に乗っているときは駅員の指示に従い行動する。
- ・ショッピングモールなど高い場所にいるときは勝手に外に出ない。ショッピングモールに行くときは、避難経路を確認しなければならないと思った。
- ・窓ガラスや倒れる可能性のある物からは離れる。必ず頭を守る。



成果・今後の展望

在校生は平成 23 年の東日本大震災の時、保育所・幼稚園、小学校低学年で大人の誘導で言われるがままに逃げただけで主体的に行動したわけではなく、忘れてしまっている。

生徒たちの防災意識を高めるために、来年度以降もこの教材を利用して、いのちをまもる行動がとれる防災教育を推進していきたい。

青少年赤十字に登録するには

青少年赤十字に加盟するとともに、その活動を学校教育の中に位置付けて実践していくことを「登録」といいます。

日本赤十字社茨城県支部にご連絡いただければ、登録に関するご案内ができます。

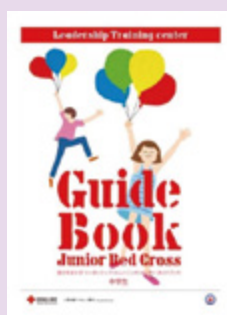
また、次ページの登録申込表にご記入のうえ、日本赤十字社茨城県支部までお送りいただくことで、登録の意思表示ができます。

登録の形

学校での青少年赤十字の取り入れ方の形は様々で、児童会・生徒会を青少年赤十字活動に位置付ける「全校参加」、学年または学級単位での参加「学年参加」、部活やクラブ活動としての「クラブ参加」などがあり、学校で自由に選ぶことができます。

登録すると

青少年赤十字の旗、銘板、メンバー章（バッジ）指導者のための情報誌や機関紙、活動状況の交換や親善の機会が提供されます。



登録についてのお問合せは…

日本赤十字社茨城県支部 組織振興課 奉仕・青少年係まで

住所：〒310-0914 茨城県水戸市小吹町2551

TEL：029-241-4516 FAX：029-241-4714

青少年赤十字登録申込票

(新規登録・継続登録)

※支部受付	※支部受付番号
年	
月	日

学校・施設名 (正式名称)					
所在地 (〒 -)					
TEL ()			FAX ()		
代表メールアドレス					
学校長・施設長 名					
青少年赤十字 主任指導者名					
青少年赤十字 主任副指導者名					
登録申込日		年 月 日			
(公 印)					
学 年	学級・グループ数	メンバー数			指 導 者 数
		男	女	計	
計					
全校(園・所)教員数		全校(園・所)学級数		全校児童・生徒数	
				男	女
※備考 1(園(所)記入欄)					
※備考 2(支部記入欄)					

事例集について

- ・本事例集は、茨城県青少年赤十字指導者協議会（専門部）のご協力により、県内の幼稚園、小・中・高等学校における近年の顕著な青少年赤十字活動を取りまとめたものです。自校の青少年赤十字活動の参考にしていただきたいと思います。
- ・校内研修会や先進校視察等に活用し、自校の青少年赤十字活動への意欲の向上につながることを期待しています。
- ・青少年赤十字活動事例集に関するご意見、提案等なんでも結構ですので、日本赤十字社茨城県支部までお寄せください。

日本赤十字社茨城県支部 組織振興課 奉仕・青少年係

住所：〒310-0914 茨城県水戸市小吹町2551

TEL：029-241-4516 FAX：029-241-4714

茨城県青少年赤十字活動事例集作成委員会

＜令和2年度茨城県青少年赤十字指導者協議会 専門部員＞

(指導部)

北茨城市立磯原中学校	榎田 千佳里
大子町立袋田小学校	酒井 健一
日立市立駒王中学校	中村 要介
茨城県立水戸第三高等学校	関口 由美子
鹿嶋市立大同東小学校	太田 樹人
土浦市立土浦第二小学校	師岡 敦司
境町立境小学校	八木 佑介

(事業部)

北茨城市立中郷第一小学校	小池 翔
大子町立だいが小学校	長岡 恵理
日立市立助川中学校	田丸 甫
茨城県立勝田工業高校	佐藤 奈津子
潮来市立潮来第一中学校	佐藤 公任子
土浦市立下高津小学校	酒井 義成
坂東市立東中学校	荒木 達郎

(広報部)

北茨城市立関本中学校	遠藤 晃佑
大子町立依上小学校	長岡 恵美
日立市立大沼小学校	菊池 浩美
茨城県立水戸桜ノ牧高等学校	山井 久美
鉾田市立鉾田南小学校	石田 美紀子
土浦市立東小学校	高貫 格
坂東市立沓掛小学校	田山 和史

令和2年度茨城県青少年赤十字活動事例集
令和3年2月 発行

編集発行者
日本赤十字社茨城県支部
茨城県青少年赤十字指導者協議会

